

文京区障害者(児)実態・意向調査報告書 概要版

目次

◆ 調査の概要	2
◆ 量的調査(アンケート調査)	2
1 身体障害者を対象とした調査	4
2 知的障害者を対象とした調査	12
3 精神障害者を対象とした調査	19
4 難病患者を対象とした調査	25
5 就学前児童の保護者を対象とした調査	32
6 就学後児童の保護者を対象とした調査	38
◆ 質的調査(インタビュー調査)	44

平成 26 年

文 京 区

◆ 調査の概要

(1) 調査の目的

文京区では障害者がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京^{ふみ みやこ}ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

平成26年度に次期計画（平成27年度～平成29年度）を改定するにあたり、その基礎資料を得るとともに、障害者（児）のサービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施しました。

(2) 調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者及び障害児を対象とした量的調査（アンケート調査）及び区内施設を利用する知的障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

◆ 量的調査(アンケート調査)

(1) 調査の対象と方法

調査の種類	調査の対象	調査方法
①身体障害者を対象とした調査	文京区にお住まいの身体障害者手帳をお持ちの方を対象としました。（肢体不自由・内部障害については抽出調査）※②、④に該当する方を除く	調査票を郵送配布し、郵送回収する方法で実施しました。
②知的障害者を対象とした調査	文京区にお住まいの愛の手帳（東京都療育手帳）をお持ちの方を対象としました。	
③精神障害者を対象とした調査	文京区にお住まいの精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を対象としました。	
④難病患者を対象とした調査	文京区にお住まいの難病医療券をお持ちの方を対象としました。	
⑤就学前児童の保護者を対象とした調査	文京区にお住まいの区立幼稚園・保育園に通っている、特別な支援・配慮を必要とするお子さん及び福祉センターに通所しているお子さんの保護者を対象としました。	調査票を園や学校等を通じて配布し、郵送回収する方法で実施しました。
⑥就学後児童の保護者を対象とした調査	文京区にお住まいの区立小中学校の特別支援学級（固定級・通級）に通っているお子さん及び特別な支援を必要とする児童として区の育成室に入室しているお子さんの保護者を対象としました。	
	文京区にお住まいの国立・都立等の特別支援学校（小学部・中学部）に通っているお子さんの保護者を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収する方法で実施しました。

(2) 調査期間

平成25年9月30日から10月21日までの期間に実施しました。

(3) 配布・回収状況

配布・回収状況	配布数	回収数	白票 無効票	有効 回収数	有効 回収率
①身体障害者	1,857	1,103	2	1,101	59.3%
②知的障害者	783	474	0	474	60.5%
③精神障害者	741	407	0	407	54.9%
④難病患者	1,524	987	1	986	64.7%
⑤就学前児童の保護者	97	71	0	71	73.2%
⑥就学後児童の保護者	304	174	0	174	57.2%
全体	5,306	3,216	3	3,213	60.6%

◆ 調査結果の見方について

- ① 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)を全て合計しても、100%にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を越えます。
- ③ 表(クロス集計)における年齢別の区分は、概ね学齢期、就労期(18~64歳)、高齢期、(後期高齢期)に該当するように分類しています。

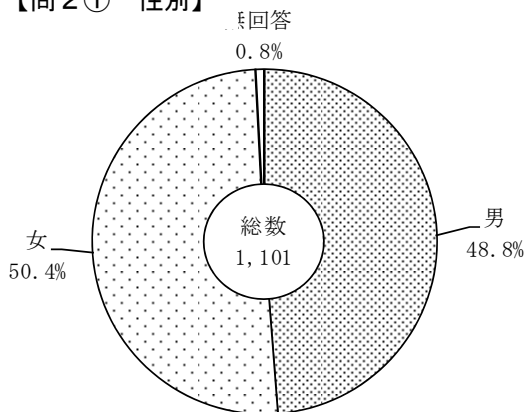
1. 身体障害者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

①性別

「女」は50.4%、「男」は48.8%となっています。

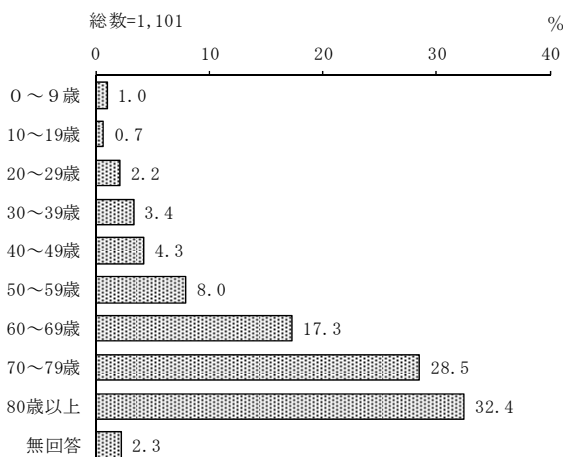
【問2① 性別】



②年齢

「80歳以上」が32.4%と最も多く、次いで「70～79歳」が28.5%、「60～69歳」が17.3%となっています。また、「65歳以上」を集計すると70.2%になります。

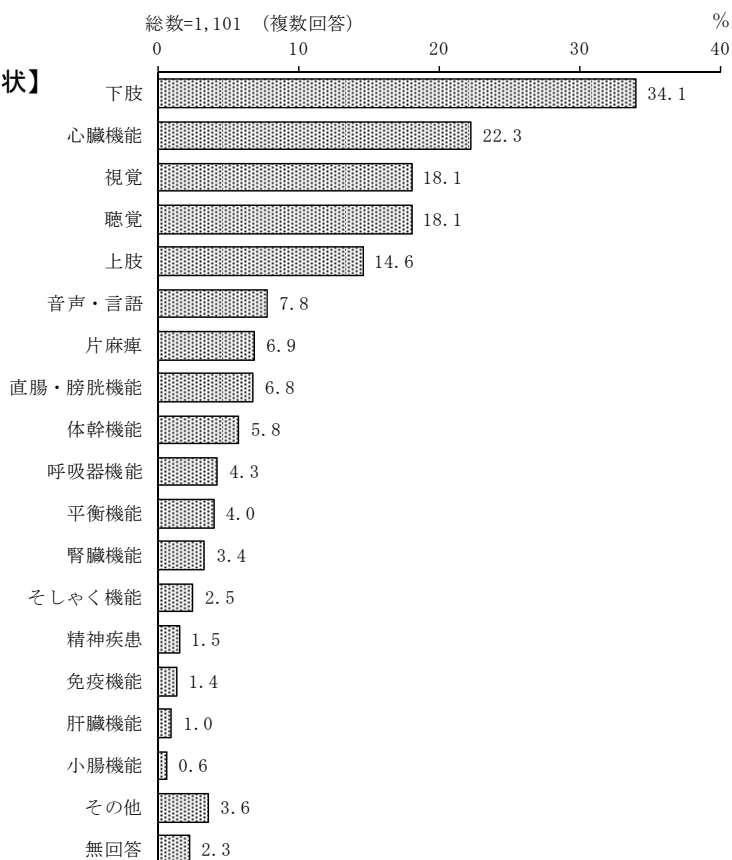
【問2② 年齢】



(2) 障害の部位、症状

「下肢」が34.1%と最も多く、次いで「心臓機能」が22.3%、「視覚」と「聴覚」がそれぞれ18.1%、「上肢」が14.6%となっています。

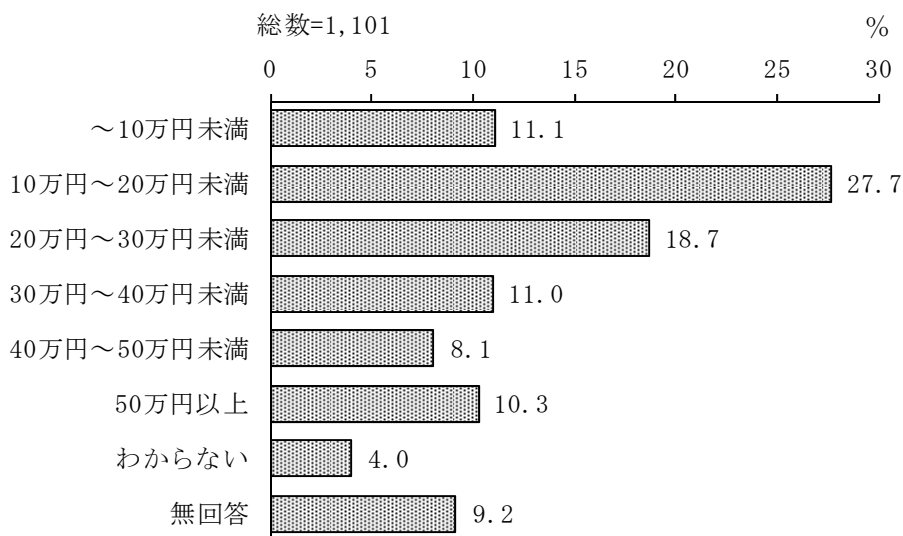
【問5 障害の部位、症状】



(3) 世帯の収入額（月額）

「10万円～20万円未満」が27.7%と最も多く、次いで「20万円～30万円未満」が18.7%、「～10万円未満」が11.1%、「30万円～40万円未満」が11.0%となっています。

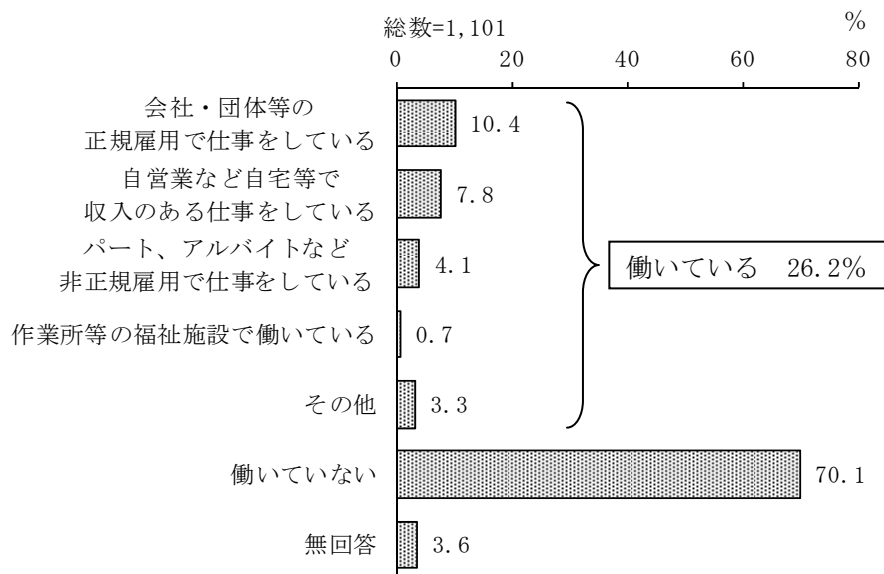
【問12 世帯の収入額（月額）】



(4) 就労状況

「会社・団体等の正規雇用で仕事をしている」が10.4%と最も多く、次いで「自営業など自宅等で収入のある仕事をしている」が7.8%、「パート・アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」が4.1%となっています。「働いている」という回答は合わせて26.2%、「働いていない」という回答は70.1%でした。

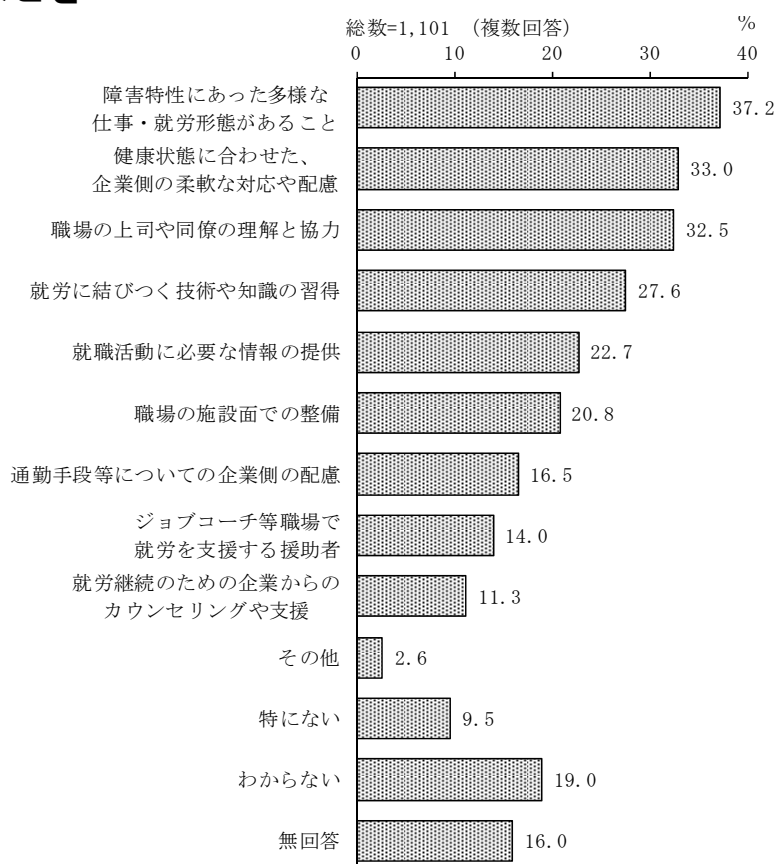
【問14-① 就労状況（年齢別）】



(5) 障害者が働くために大切なこと

「障害特性にあった多様な仕事・就労形態があること」が 37.2%と最も多く、次いで「健康状態に合わせた、企業側の柔軟な対応や配慮」が 33.0%、「職場の上司や同僚の理解と協力」が 32.5%、「就労に結びつく技術や知識の習得」が 27.6%、「就職活動に必要な情報の提供」が 22.7%となっています。

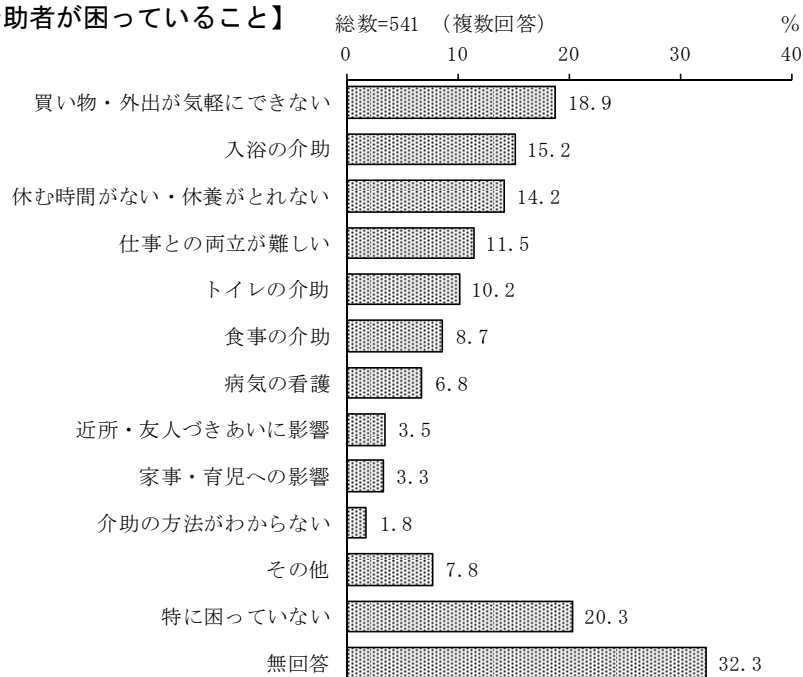
【問 15 障害者が働くために大切なこと】



(6) 介助者が困っていること

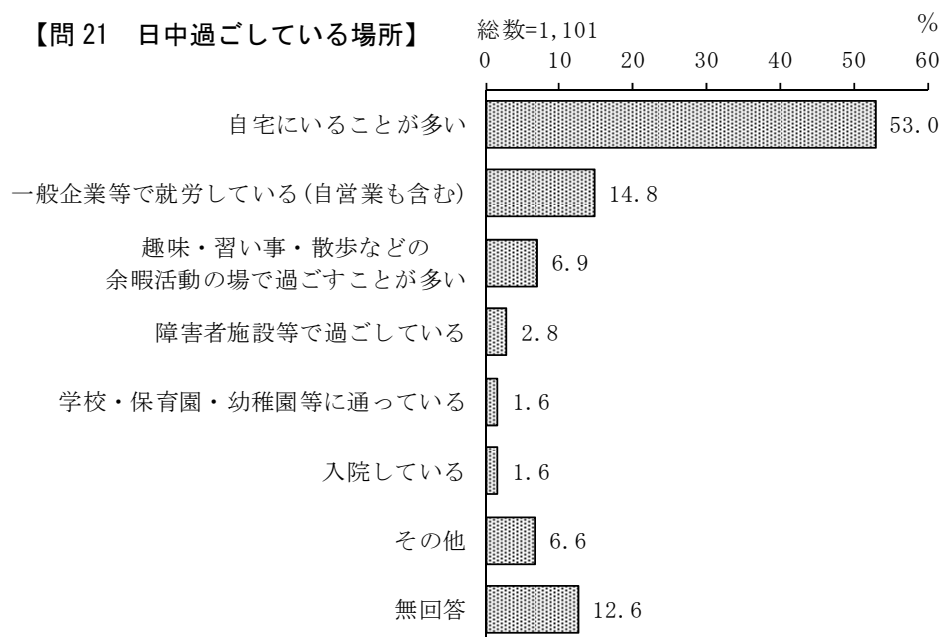
「買い物・外出が気軽にできない」が 18.9%と最も多く、次いで「入浴の介助」が 15.2%、「休む時間がない・休養がとれない」が 14.2%、「仕事との両立が難しい」が 11.5%、「トイレの介助」が 10.2%となっています。「特に困っていない」は 20.3%でした。

【問 18 介助者が困っていること】



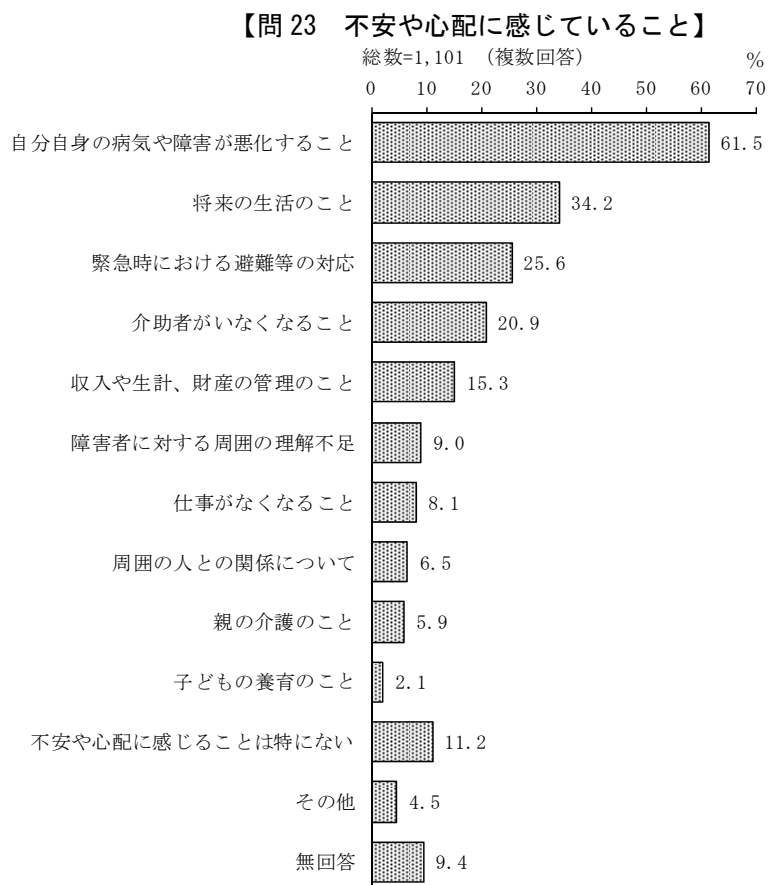
(7) 日中過ごしている場所

「自宅にすることが多い」が53.0%と最も多く、次いで「一般企業等で就労している(自営業も含む)」が14.8%、「趣味・習い事・散歩などの余暇活動の場で過ごすことが多い」が6.9%となっています。



(8) 不安や心配に感じていること

「自分自身の病気や障害が悪化すること」が61.5%と最も多く、次いで「将来の生活のこと」が34.2%、「緊急時における避難等の対応」が25.6%、「介助者がいなくなること」が20.9%、「収入や生計、財産の管理のこと」が15.3%となっています。



(9) 日中活動の希望

全体では、「自宅で過ごす」が 58.9%と最も多く、次いで「就職する、または仕事を継続する」が 13.0%となっています。

「就職する、または仕事を継続する」という回答の割合は 18～49 歳で多く、「自宅で過ごす」という回答の割合は 50 歳以上で多くなっています。

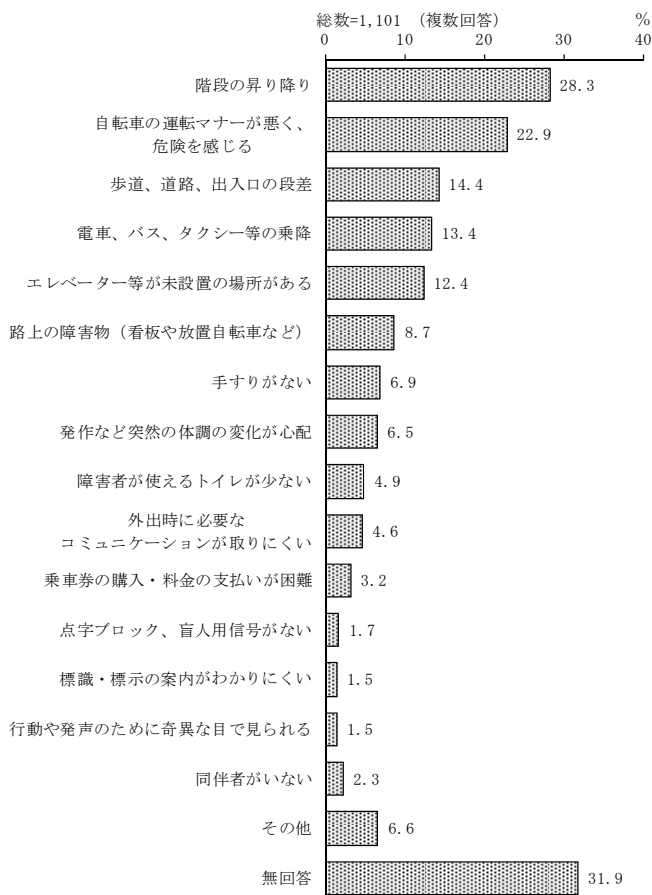
【問 24 日中活動の希望（年齢別）】

上段：実数 下段：割合	全体	自宅で過ごす	福祉施設・就労継続支援施設に通所する	就労移行支援施設に通所する	生活介護等を行う障害者施設に通所する	障害者施設に入所する	介護療養型医療施設等に入所する	仕事を継続する、または就職する	特別支援学校に就学する	地域の小中学校に就学する	児童発達支援を行う施設に通所する	その他	無回答
	全体	1,101 100.0	648 58.9	10 0.9	15 1.4	18 1.6	31 2.8	143 13.0	5 0.5	7 0.6	1 0.1	65 5.9	158 14.4
年齢別	0～11歳	12 100.0	-	-	-	-	-	-	4 33.3	4 33.3	-	1 8.3	3 25.0
	12～17歳	6 100.0	1 16.7	-	-	-	-	2 33.3	-	2 33.3	-	1 16.7	-
	18～29歳	25 100.0	5 20.0	1 4.0	-	-	-	16 64.0	1 4.0	-	-	2 8.0	-
	30～39歳	37 100.0	7 18.9	1 2.7	-	-	-	23 62.2	-	-	-	1 2.7	5 13.5
	40～49歳	47 100.0	9 19.1	1 2.1	-	-	-	26 55.3	-	1 2.1	-	4 8.5	6 12.8
	50～59歳	88 100.0	37 42.0	2 2.3	2 2.3	1 1.1	-	31 35.2	-	-	-	7 8.0	8 9.1
	60～64歳	88 100.0	47 53.4	3 3.4	-	1 1.1	1 1.1	17 19.3	-	-	-	6 6.8	13 14.8
	65～69歳	102 100.0	68 66.7	1 1.0	4 3.9	3 2.9	5 4.9	7 6.9	-	-	-	5 4.9	9 8.8
	70～74歳	157 100.0	100 63.7	-	3 1.9	3 1.9	5 3.2	12 7.6	-	-	-	6 3.8	28 17.8
	75歳以上	514 100.0	361 70.2	1 0.2	5 1.0	10 1.9	20 3.9	7 1.4	-	-	1 0.2	31 6.0	78 15.2
	無回答	25 100.0	13 52.0	-	1 4.0	-	-	2 8.0	-	-	-	1 4.0	8 32.0

【問 28 外出の際に困ること】

(10) 外出の際に困ること

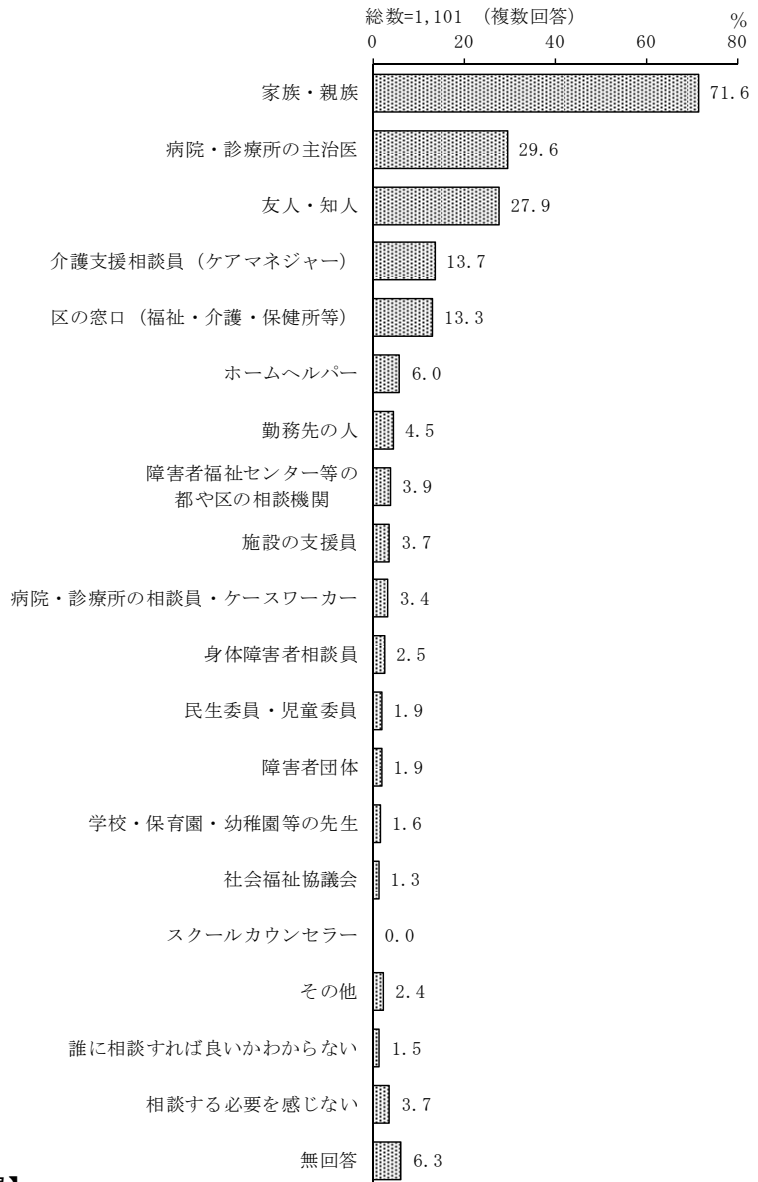
「階段の昇り降り」が 28.3%と最も多く、次いで「自転車の運転マナーが悪く、危険を感じる」が 22.9%、「歩道、道路、出入口の段差」が 14.4%、「電車、バス、タクシー等の乗降」が 13.4%、「エレベーター等が未設置の場所がある」が 12.4%となっています。



【問 29 困ったときの相談先】

(11) 困ったときの相談先

「家族・親族」が71.6%と最も多く、次いで「病院・診療所の主治医」が29.6%、「友人・知人」が27.9%、「介護支援相談員（ケアマネジャー）」が13.7%、「区の窓口（福祉・介護・保健所等）」が13.3%となっています。



【問 38 サービスの利用希望】



(12) サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「日常生活用具給付等事業」が25.3%と最も多く、次いで「居宅介護（重度訪問介護、行動援護含む）」が20.0%、「相談支援事業」が11.8%、「短期入所（ショートステイ）」が10.4%、「移動支援事業」が10.2%となっています。

(13) 災害に関して不安に感じていること

全体では、「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が38.9%と最も多く、次いで「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が36.6%、「避難所におけるトイレの利用」が34.2%、「自力で避難できない」が27.3%、「避難所の段差や階段などのバリア」が23.7%となっています。

「医療機器の使用や服薬が出来なくなる等、医療の確保」という回答の割合は、内部障害、精神疾患の方で多くなっています。

【問 41 災害に関して不安に感じていること（障害の部位別）】

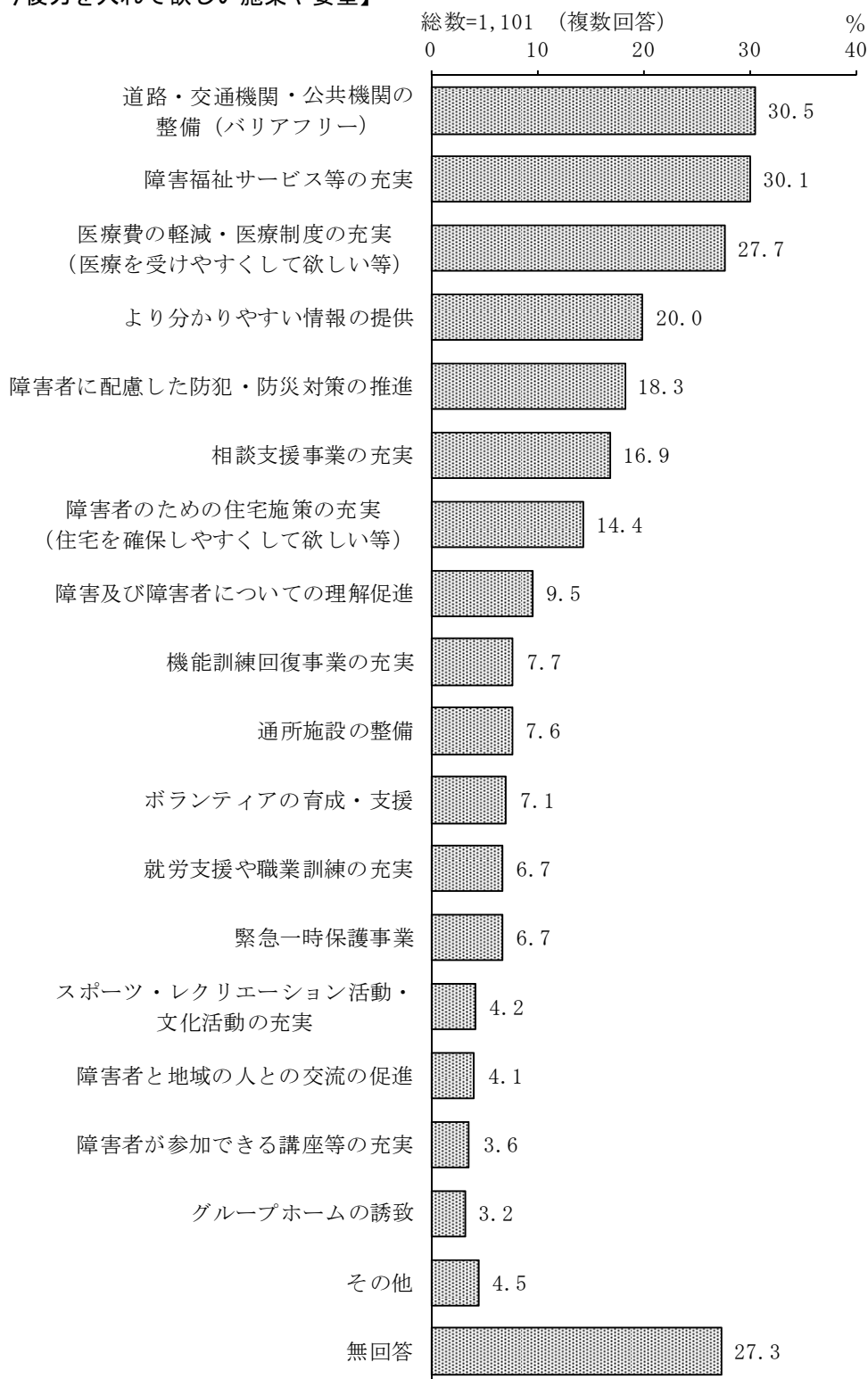
上段：実数 下段：割合	全体	災害の情報を得ることができない	消防署や周囲の人へ連絡できない	災害の発生など	初期消火ができない	自力で避難できない	生活に不安があり、避難所ですること知らない人と一緒に過ごす	階段などの段差やバリア	避難所での支援者がいない
	全体	1,101 100.0	184 16.7	145 13.2	256 23.3	301 27.3	196 17.8	261 23.7	193 17.5
障害の部位	視覚	199 100.0	34 17.1	31 15.6	77 38.7	83 41.7	55 27.6	63 31.7	59 29.6
	聴覚・平衡機能	230 100.0	72 31.3	57 24.8	62 27.0	74 32.2	43 18.7	54 23.5	55 23.9
	音声・言語・そしゃく機能	93 100.0	14 15.1	28 30.1	31 33.3	36 38.7	25 26.9	26 28.0	18 19.4
	肢体不自由	450 100.0	65 14.4	66 14.7	126 28.0	178 39.6	87 19.3	152 33.8	87 19.3
	内部障害	378 100.0	45 11.9	33 8.7	75 19.8	79 20.9	53 14.0	67 17.7	48 12.7
	精神疾患	17 100.0	3 17.6	2 11.8	5 29.4	7 41.2	5 29.4	5 29.4	4 23.5
	その他	40 100.0	7 17.5	5 12.5	12 30.0	17 42.5	7 17.5	12 30.0	9 22.5
	無回答	25 100.0	2 8.0	4 16.0	5 20.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	1 4.0

上段：実数 下段：割合	全体	必要となる特別なため	避難所等におけるトイレの利用	医療機器の確保	医療機器の使用や服薬がなくなる等	生活必需品の確保	自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の確保	その他	特になし	わからない	無回答
	全体	188 17.1	377 34.2	403 36.6	428 38.9	39 3.5	119 10.8	40 3.6	133 12.1		
障害の部位	視覚	36 18.1	73 36.7	67 33.7	85 42.7	7 3.5	15 7.5	5 2.5	27 13.6		
	聴覚・平衡機能	38 16.5	64 27.8	76 33.0	72 31.3	11 4.8	19 8.3	10 4.3	39 17.0		
	音声・言語・そしゃく機能	24 25.8	28 30.1	35 37.6	33 35.5	3 3.2	13 14.0	6 6.5	12 12.9		
	肢体不自由	120 26.7	208 46.2	172 38.2	189 42.0	19 4.2	38 8.4	14 3.1	48 10.7		
	内部障害	56 14.8	119 31.5	171 45.2	157 41.5	8 2.1	47 12.4	11 2.9	42 11.1		
	精神疾患	5 29.4	3 17.6	10 58.8	8 47.1	-	-	1 5.9	3 17.6		
	その他	6 15.0	14 35.0	23 57.5	20 50.0	1 2.5	2 5.0	2 5.0	3 7.5		
	無回答	1 4.0	4 16.0	2 8.0	4 16.0	-	4 16.0	1 4.0	11 44.0		

(14) 今後力を入れて欲しい施策や要望

「道路・交通機関・公共機関の整備（バリアフリー）」が30.5%と最も多く、次いで「障害福祉サービス等の充実」が30.1%、「医療費の軽減・医療制度の充実（医療を受けやすくして欲しい等）」が27.7%、「より分かりやすい情報の提供」が20.0%、「障害者に配慮した防犯・防災対策の推進」が18.3%となっています。

【問 48 今後力を入れて欲しい施策や要望】



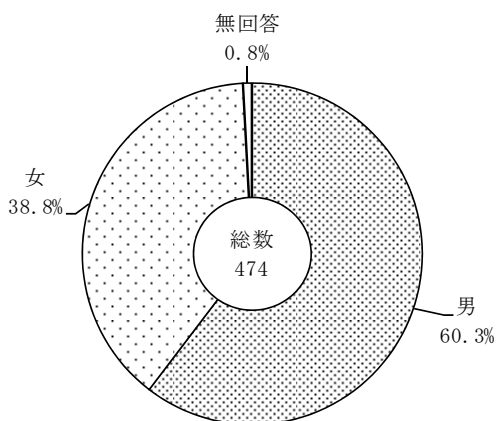
2. 知的障害者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

①性別

「男」は60.3%、「女」は38.8%となっています。

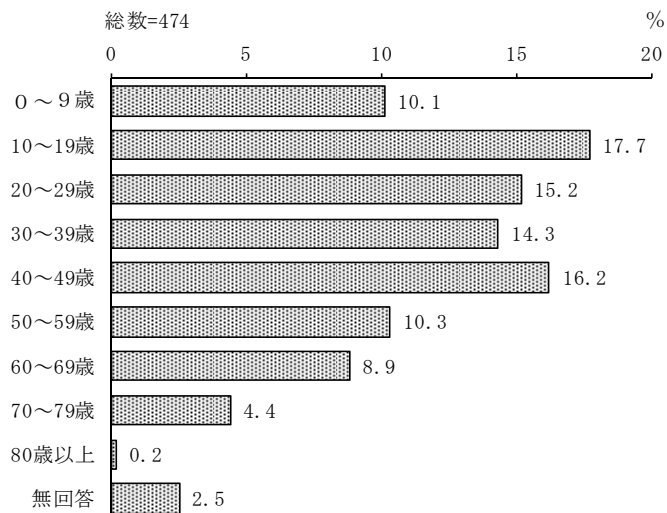
【問2① 性別】



②年齢

「10～19歳」が17.7%と最も多く、次いで「40～49歳」が16.2%、「20～29歳」が15.2%、「30～39歳」が14.3%となっています。

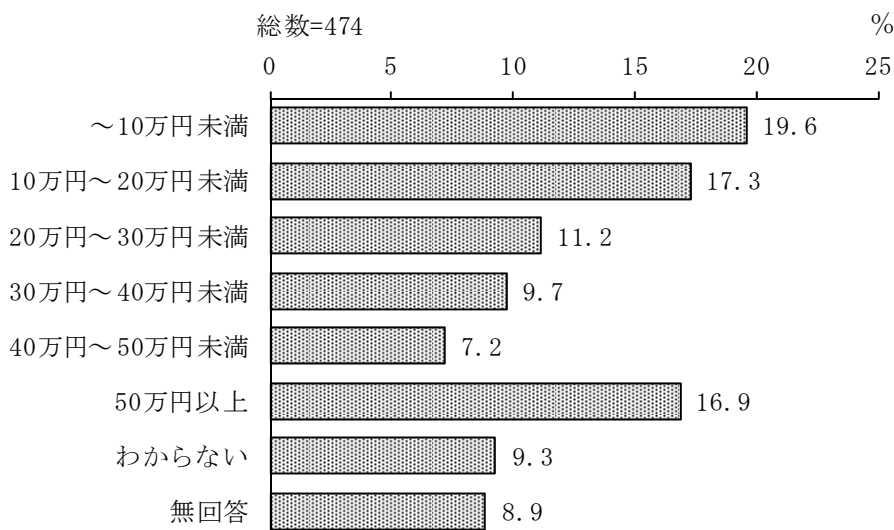
【問2② 年齢】



(2) 世帯の収入額（月額）

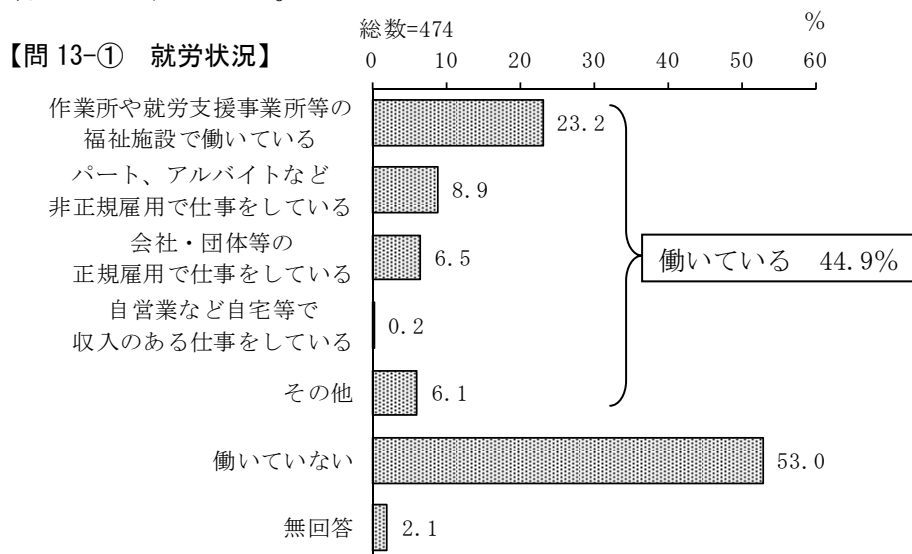
「～10万円未満」が19.6%と最も多く、次いで「10万円～20万円未満」が17.3%、「50万円以上」が16.9%、「20万円～30万円未満」が11.2%、「30万円～40万円未満」が9.7%となっています。

【問11 世帯の収入額（月額）】



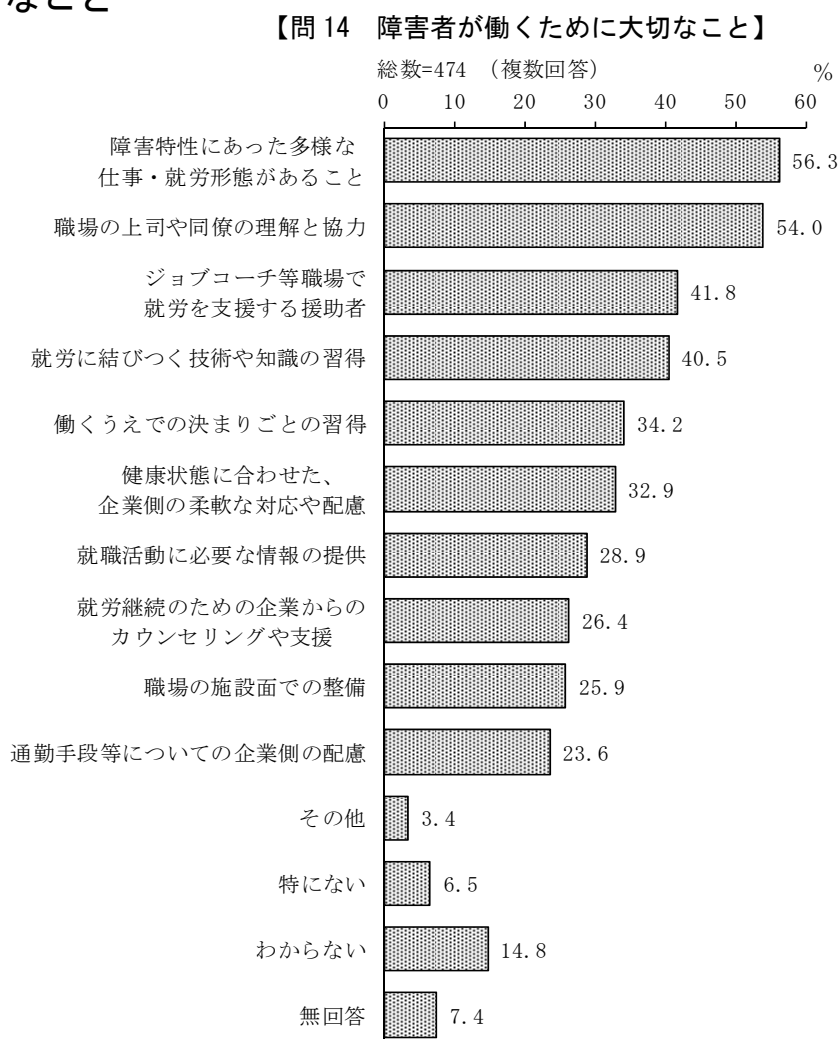
(3) 就労状況

「作業所や就労支援事業所等の福祉施設で働いている」が23.2%と最も多く、次いで「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」が8.9%、「会社・団体等の正規雇用で仕事をしている」が6.5%となっています。「働いている」という回答は合わせて44.9%、「働いていない」という回答は53.0%でした。



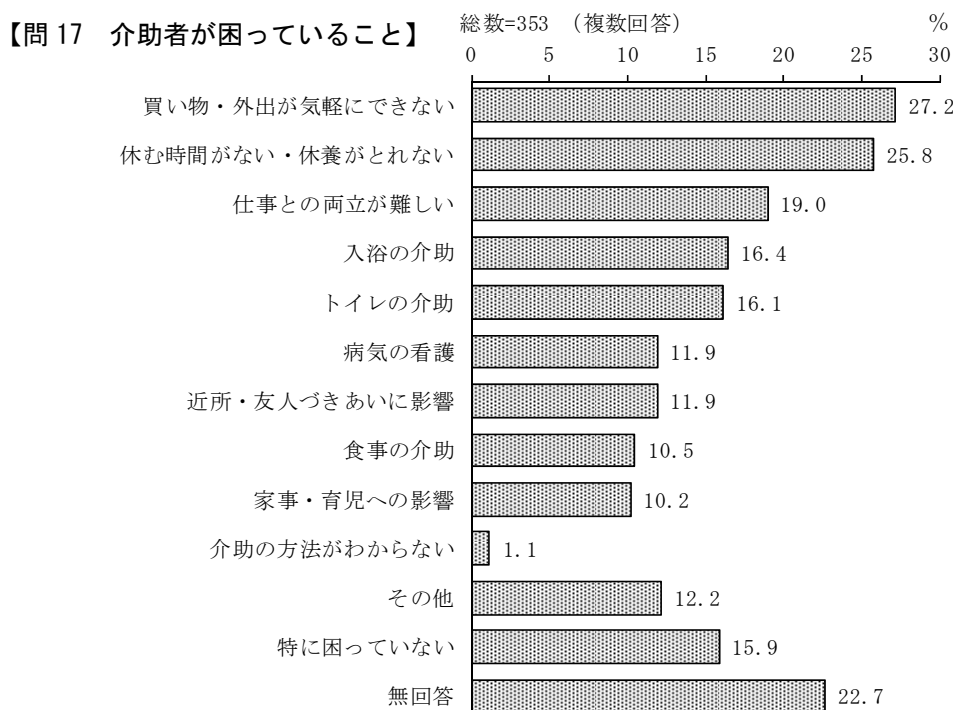
(4) 障害者が働くために大切なこと

「障害特性にあった多様な仕事・就労形態があること」が56.3%と最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解と協力」が54.0%、「ジョブコーチ等職場で就労を支援する援助者」が41.8%、「就労に結びつく技術や知識の習得」が40.5%、「働くうえでの決まりごとの習得」が34.2%となっています。



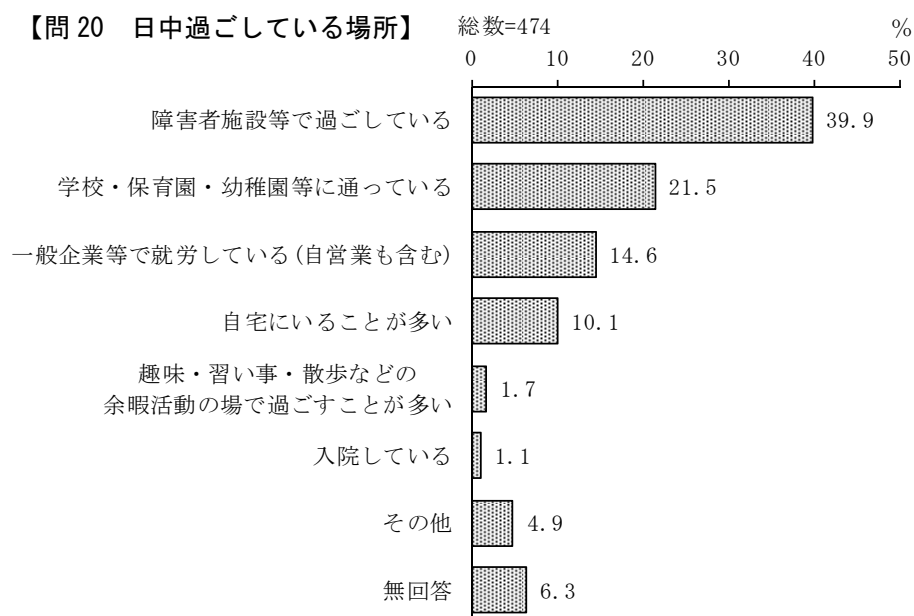
(5) 介助者が困っていること

「買い物・外出が気軽にできない」が27.2%と最も多く、次いで「休む時間がない・休養がとれない」が25.8%、「仕事との両立が難しい」が19.0%、「入浴の介助」が16.4%、「トイレの介助」が16.1%となっています。「その他」では、「本人の意思の確認が難しい」などの回答がありました。



(6) 日中過ごしている場所

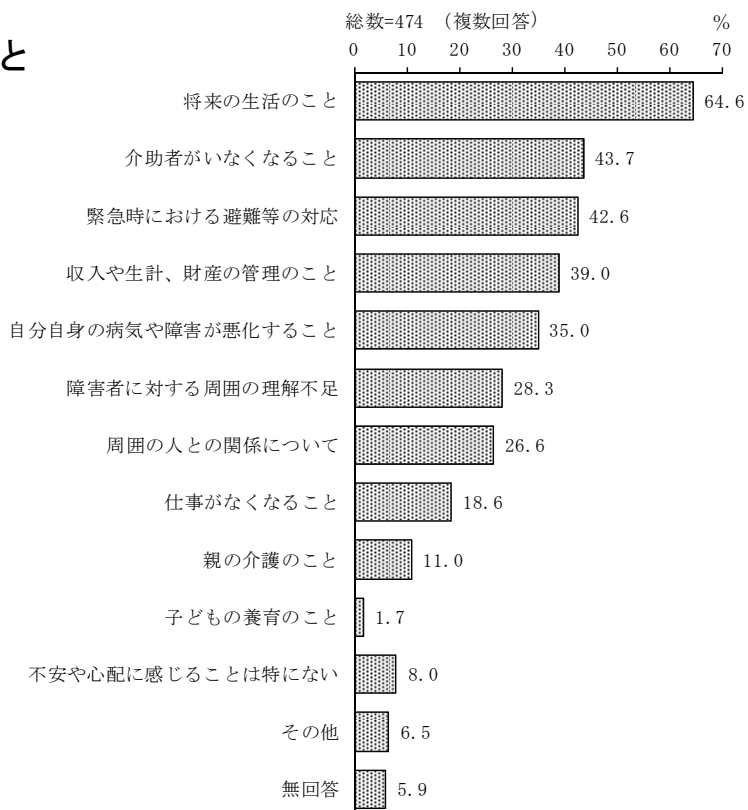
「障害者施設等で過ごしている」が39.9%と最も多く、次いで「学校・保育園・幼稚園等に通っている」が21.5%、「一般企業等で就労している(自営業も含む)」が14.6%、「自宅にすることが多い」が10.1%となっています。



【問 22 不安や心配に感じていること】

(7) 不安や心配に感じていること

「将来の生活のこと」が64.6%と最も多く、次いで「介助者がいなくなること」が43.7%、「緊急時における避難等の対応」が42.6%、「収入や生計、財産の管理のこと」が39.0%、「自分自身の病気や障害が悪化すること」が35.0%となっています。



(8) 日中活動の希望

全体では、「仕事をする（アルバイトも含む）、または仕事を継続する」が21.9%と最も多く、次いで「福祉作業所等の就労移行・就労継続支援施設、地域活動支援センター等に通所する」が16.9%、「特別支援学級・特別支援学校に就学する」が12.0%、「自宅で過ごす」と「生活介護等を行う障害者施設に通所する」がそれぞれ8.9%となっています。

「特別支援学級・特別支援学校に就学する」という回答の割合は18歳未満で多く、「仕事をする（アルバイトも含む）、または仕事を継続する」という回答の割合は18～39歳で多くなっています。

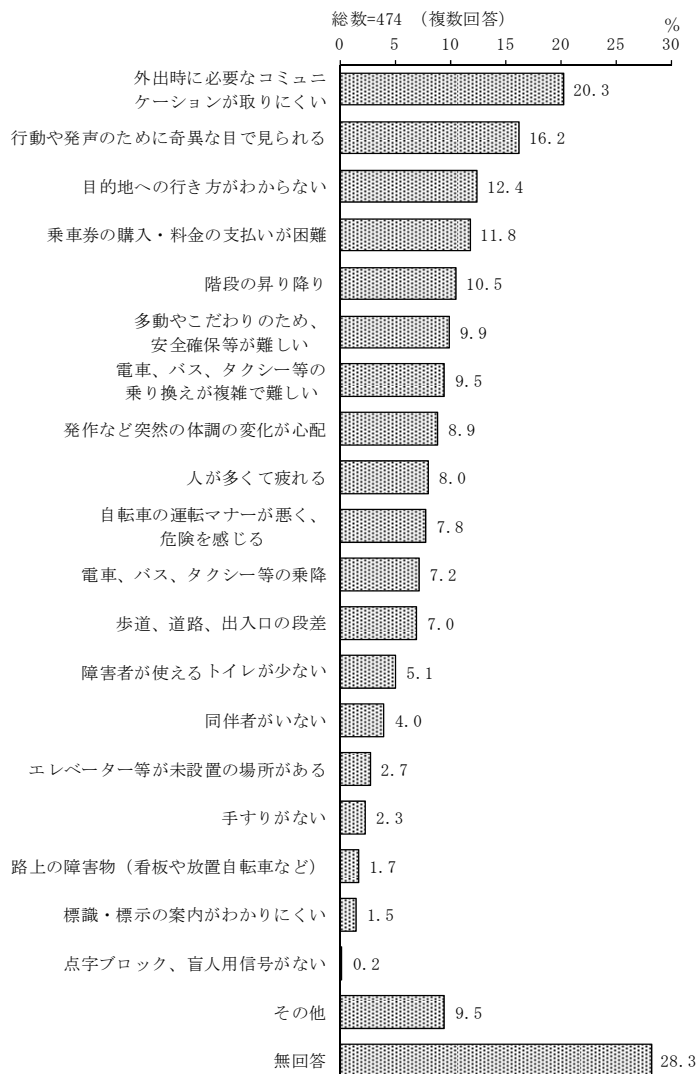
【問 23 日中活動の希望（年齢別）】

上段：実数 下段：割合	全体	自宅で過ごす	福祉作業所等の就労移行・活動	生活介護等を行う障害者施設に通所する	障害者施設に入所する	含む）、または仕事を継続する（アルバイトも	特別支援学級・特別支援学校に就学する	通常の学級に就学する	地域の小学校・中学校・高校の	施設に発達支援を行う	児童に通所する	その他	無回答
	全体	474 100.0	42 8.9	80 16.9	42 8.9	40 8.4	104 21.9	57 12.0	7 1.5	5 1.1	41 8.6	56 11.8	
年齢別	0～11歳	66 100.0	1 1.5	2 3.0	1 1.5	-	4 6.1	38 57.6	6 9.1	3 4.5	2 3.0	2 3.0	9 13.6
	12～17歳	49 100.0	1 2.0	11 22.4	5 10.2	-	12 24.5	16 32.7	-	-	1 2.0	1 2.0	3 6.1
	18～29歳	89 100.0	6 6.7	21 23.6	11 12.4	2 2.2	37 41.6	-	1 1.1	-	6 6.7	5 5.6	
	30～39歳	68 100.0	5 7.4	11 16.2	11 16.2	7 10.3	19 27.9	1 1.5	-	1 1.5	2 2.9	11 16.2	
	40～49歳	77 100.0	8 10.4	14 18.2	4 5.2	12 15.6	16 20.8	-	-	-	9 11.7	14 18.2	
	50～59歳	49 100.0	6 12.2	13 26.5	4 8.2	6 12.2	5 10.2	1 2.0	-	-	9 18.4	5 10.2	
	60～64歳	26 100.0	3 11.5	3 11.5	4 15.4	6 23.1	3 11.5	-	-	-	3 11.5	4 15.4	
	65～69歳	16 100.0	4 25.0	2 12.5	-	4 25.0	1 6.3	-	-	-	4 25.0	1 6.3	
	70～74歳	20 100.0	5 25.0	2 10.0	2 10.0	3 15.0	2 10.0	-	-	1 5.0	4 20.0	1 5.0	
	75歳以上	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	
無回答	12 100.0	3 25.0	1 8.3	-	-	5 41.7	1 8.3	-	-	-	2 16.7		

(9) 外出の際に困ること

【問 27 外出の際に困ること】

「外出時に必要なコミュニケーションが取りにくい」が20.3%と最も多く、次いで「行動や発声のために奇異な目で見られる」が16.2%、「目的地への行き方がわからない」が12.4%、「乗車券の購入・料金の支払いが困難」が11.8%、「階段の昇り降り」が10.5%となっています。



【問 28 困ったときの相談先】



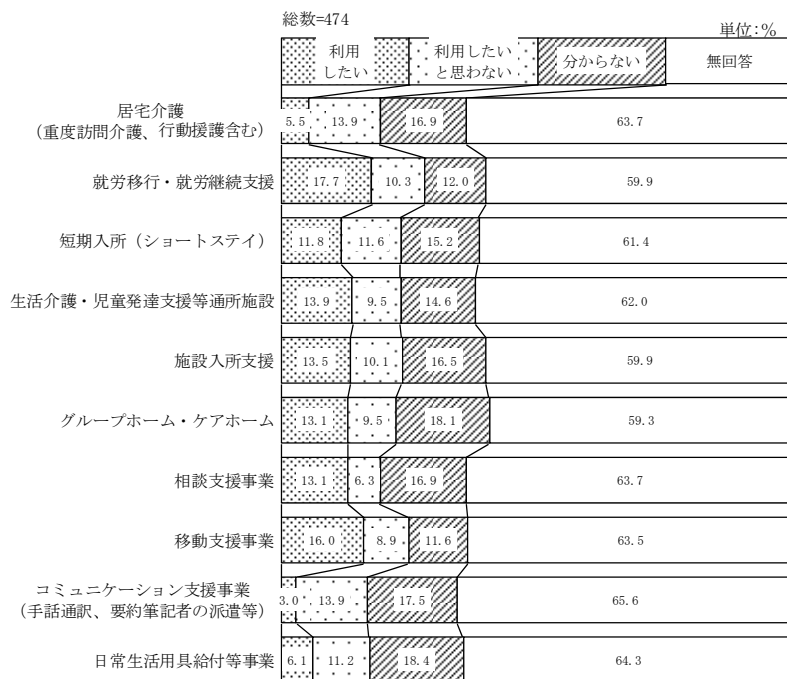
(10) 困ったときの相談先

「家族・親族」が72.2%と最も多く、次いで「施設の支援員」が34.2%、「学校・保育園・幼稚園等の先生」が17.9%、「病院・診療所の主治医」が17.7%、「区の窓口(福祉・介護・保健所等)」が15.6%となっています。

(11) サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「就労移行・就労継続支援」が17.7%と最も多く、次いで「移動支援事業」が16.0%、「生活介護・児童発達支援等通所施設」が13.9%、「施設入所支援」が13.5%、「グループホーム・ケアホーム」と「相談支援事業」がそれぞれ13.1%となっています。

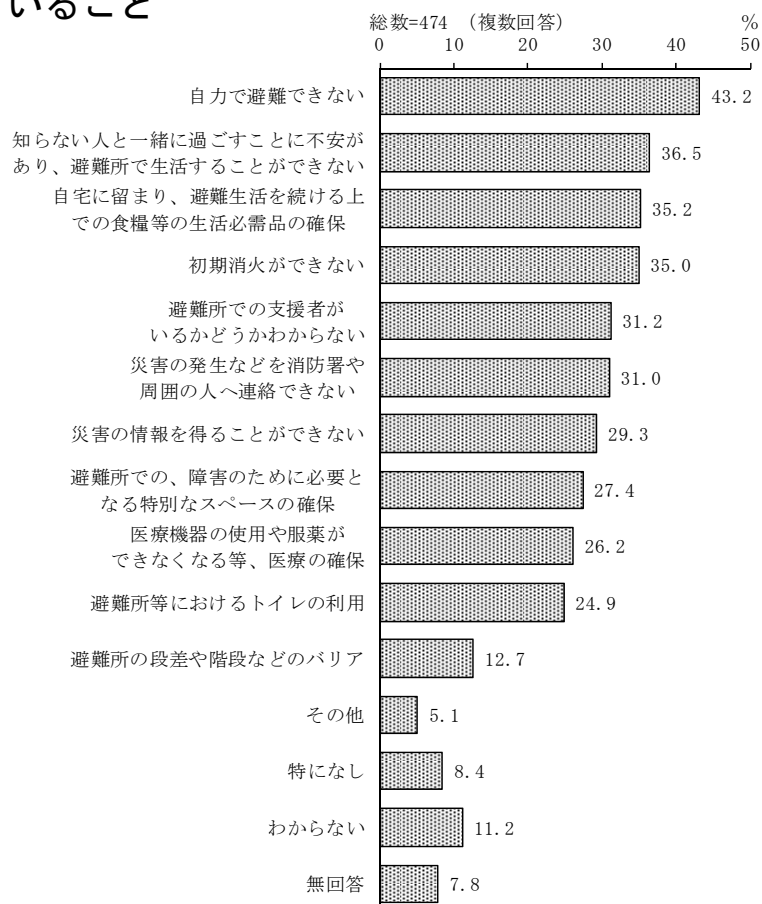
【問 37 サービスの利用希望】



(12) 災害に関して不安に感じていること

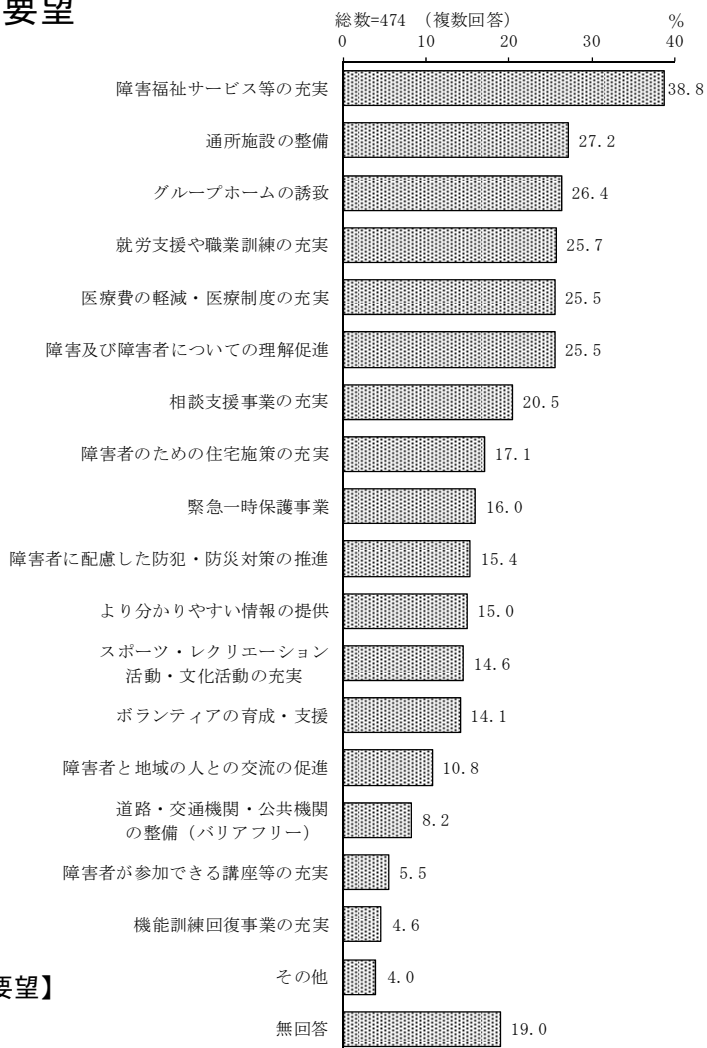
「自力で避難できない」が43.2%と最も多く、次いで「知らない人と一緒に過ごすことに不安があり、避難所で生活することができない」が36.5%、「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が35.2%、「初期消火ができない」が35.0%、「避難所での支援者がいるかどうか分からない」「災害の発生などを消防署や周囲の人へ連絡できない」が31.2%、「災害の情報を得ることができない」が29.3%、「避難所での、障害のために必要となる特別なスペースの確保」が27.4%、「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が26.2%、「避難所等におけるトイレの利用」が24.9%、「避難所の段差や階段などのバリア」が12.7%、「その他」が5.1%、「特になし」が8.4%、「わからない」が11.2%、「無回答」が7.8%となっています。

【問 40 災害に関して不安に感じていること】



(13) 今後力を入れて欲しい施策や要望

「障害福祉サービス等の充実」が38.8%と最も多く、次いで「通所施設の整備」が27.2%、「グループホームの誘致」が26.4%、「就労支援や職業訓練の充実」が25.7%、「医療費の軽減・医療制度の充実」と「障害及び障害者についての理解促進」がそれぞれ25.5%となっています。



【問 47 今後力を入れて欲しい施策や要望】

3. 精神障害者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

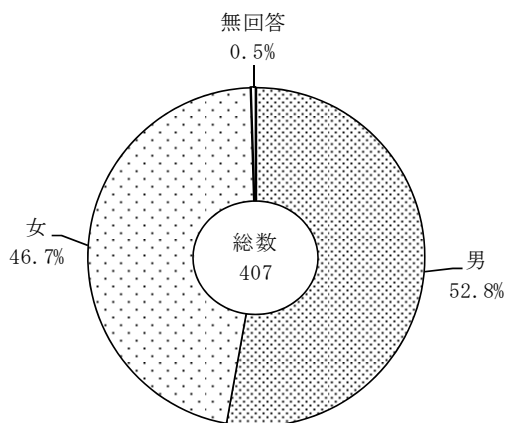
①性別

「男」が52.8%、「女」が46.7%となっています。

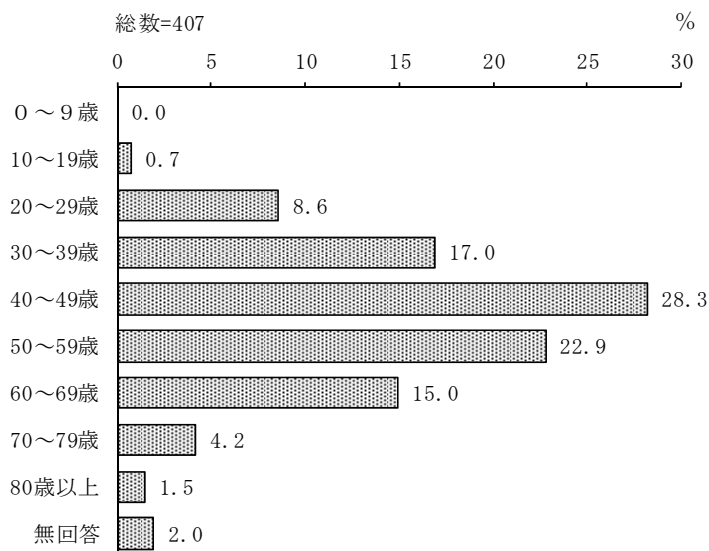
②年齢

「40～49歳」が28.3%と最も多く、次いで「50～59歳」が22.9%、「30～39歳」が17.0%、「60～69歳」が15.0%となっています。

【問2① 性別】



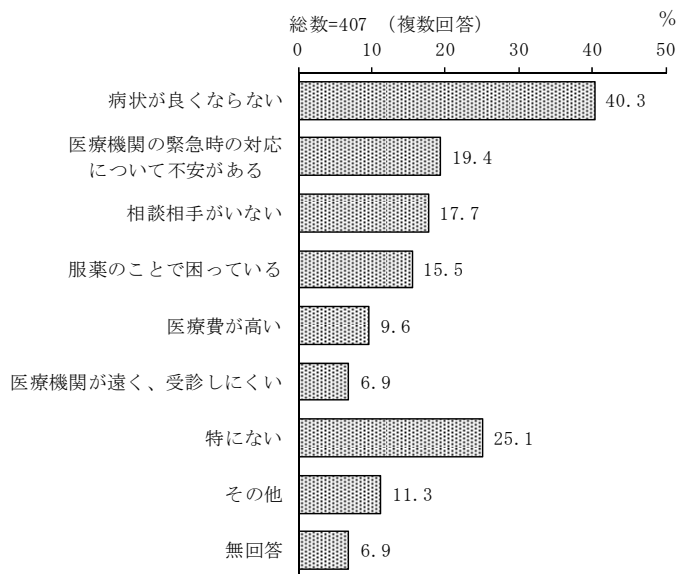
【問2② 年齢】



(2) 医療について困っていること

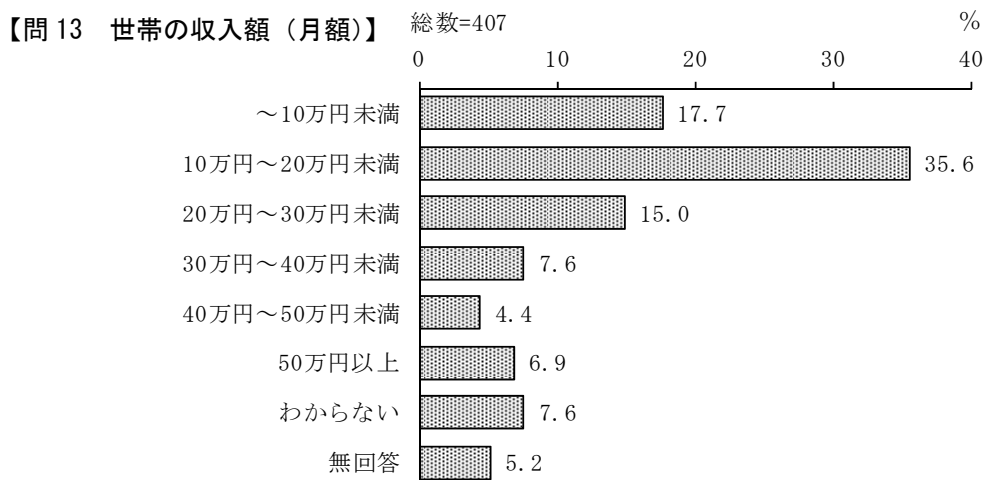
「病状が良くならない」が40.3%と最も多く、次いで「医療機関の緊急時の対応について不安がある」が19.4%、「相談相手がいない」が17.7%、「服薬のことで困っている」が15.5%、「医療費が高い」が9.6%となっています。「特にない」は25.1%でした。「その他」では、「経済的な負担が大きい」、「周囲の理解がない」などの回答がありました。

【問9 医療について困っていること】



(3) 世帯の収入額（月額）

「10万円～20万円未満」が35.6%と最も多く、次いで「～10万円未満」が17.7%、「20万円～30万円未満」が15.0%、「30万円～40万円未満」が7.6%となっています。



(4) 就労状況

全体では、「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」が12.8%と最も多く、次いで「就労支援事業所等の福祉施設で働いている」が10.6%となっています。「働いている」という回答は合わせて34.9%、「働いていない」という回答は63.1%でした。

「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」、「就労支援事業所等の福祉施設で働いている」という回答の割合は30～49歳でやや多くなっています。また、就労期（18～64歳）に限ってみると、働いている人は39.6%、働いていない人は58.7%となっています。

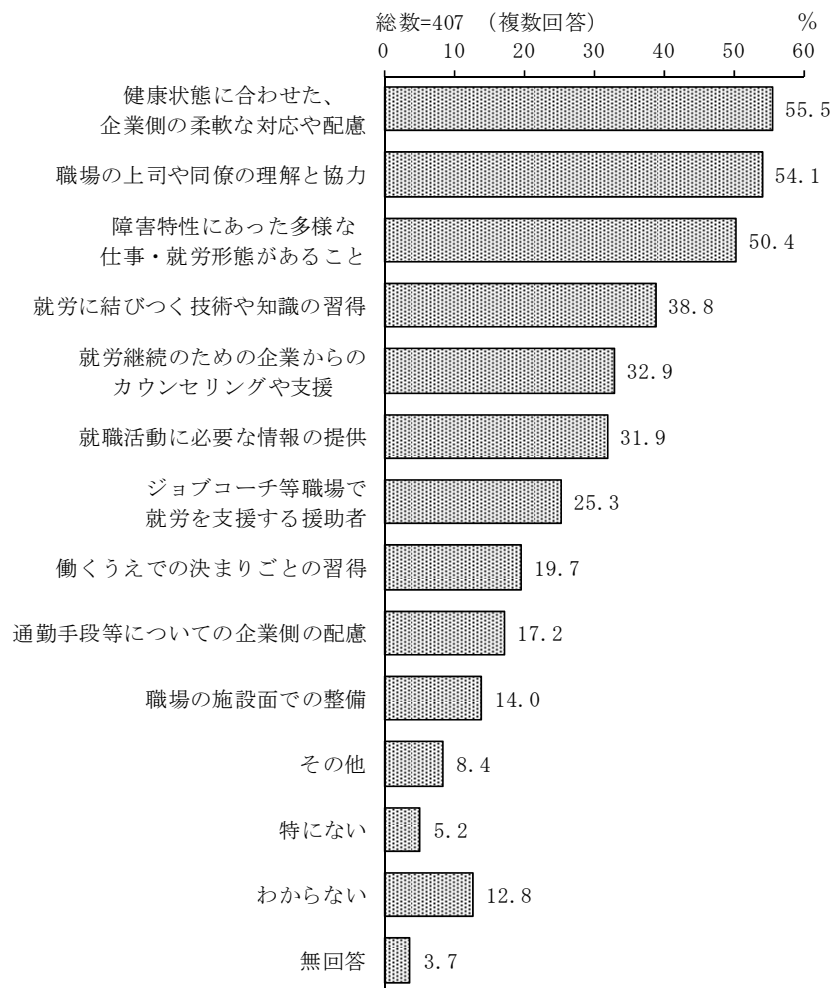
【問15-① 就労状況（年齢別）】

	全体	就労状況							無回答
		正会 規社 雇・ 団 体 等 の 仕 事 を し て い る	非 パ ー ト ・ ア ル バ イ ト な ど の 仕 事 を し て い る	自 営 業 な ど 自 宅 等 で し て い る	福 就 社 支 援 事 業 所 等 の 仕 事 を し て い る	そ の 他	働 い て い な い		
上段：実数	407	26	52	15	43	6	257	8	
下段：割合	100.0	6.4	12.8	3.7	10.6	1.5	63.1	2.0	
年齢別	18歳未満	2	-	-	-	-	2	-	
		100.0	-	-	-	-	100.0	-	
	18～29歳	36	5	6	-	4	21	-	
		100.0	13.9	16.7	-	11.1	58.3	-	
	30～39歳	69	5	13	2	13	34	1	
		100.0	7.2	18.8	2.9	18.8	49.3	1.4	
	40～49歳	115	6	21	3	20	58	4	
		100.0	5.2	18.3	2.6	17.4	50.4	3.5	
50～64歳	126	8	12	8	5	90	1		
	100.0	6.3	9.5	6.3	4.0	71.4	0.8		
65歳以上	51	2	-	2	1	45	1		
	100.0	3.9	-	3.9	2.0	88.2	2.0		
無回答	8	-	-	-	-	7	1		
	100.0	-	-	-	-	87.5	12.5		

(5) 障害者が働くために大切なこと

「健康状態に合わせた、企業側の柔軟な対応や配慮」が55.5%と最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解と協力」が54.1%、「障害特性にあった多様な仕事・就労形態があること」が50.4%、「就労に結びつく技術や知識の習得」が38.8%、「就労継続のための企業からのカウンセリングや支援」が32.9%となっています。

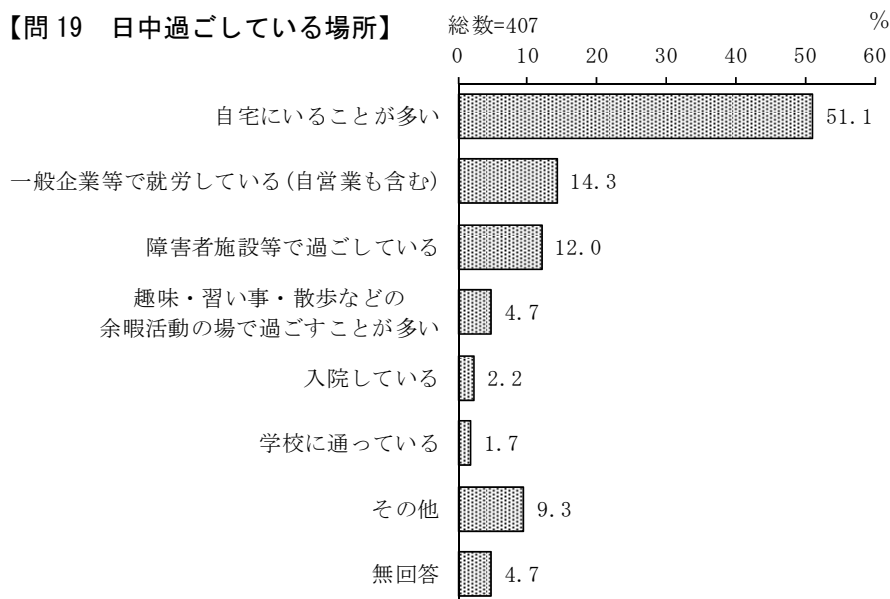
【問 18 障害者が働くために大切なこと】



(6) 日中過ごしている場所

「自宅にすることが多い」が51.1%と最も多く、次いで「一般企業等で就労している(自営業も含む)」が14.3%、「障害者施設等で過ごしている」が12.0%となっています。

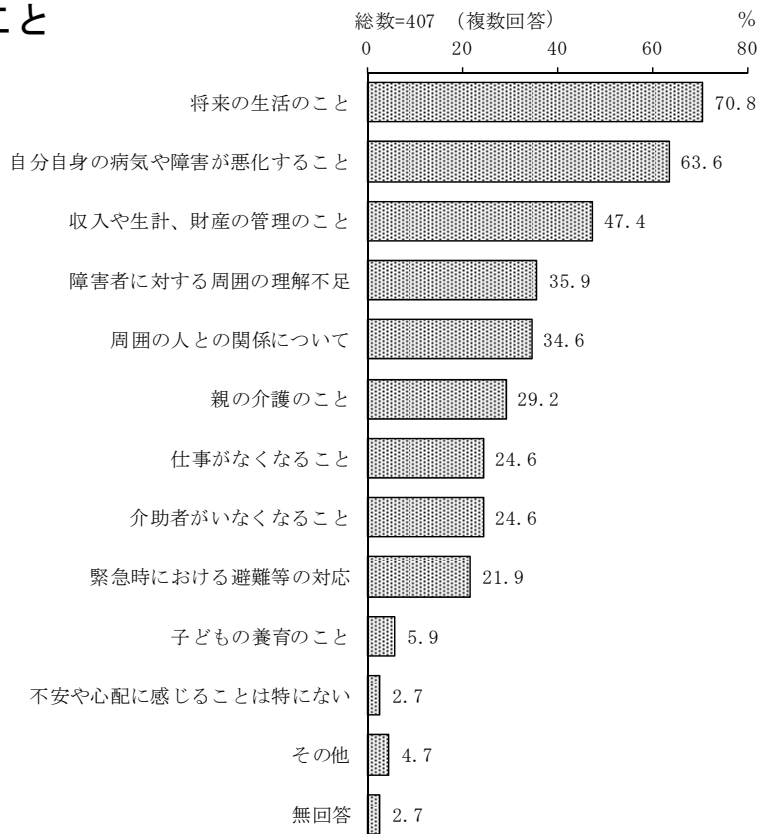
【問 19 日中過ごしている場所】



(7) 不安や心配に感じていること

「将来の生活のこと」が70.8%と最も多く、次いで「自分自身の病気や障害が悪化すること」が63.6%、「収入や生計、財産の管理のこと」が47.4%、「障害者に対する周囲の理解不足」が35.9%、「周囲の人との関係について」が34.6%となっています。

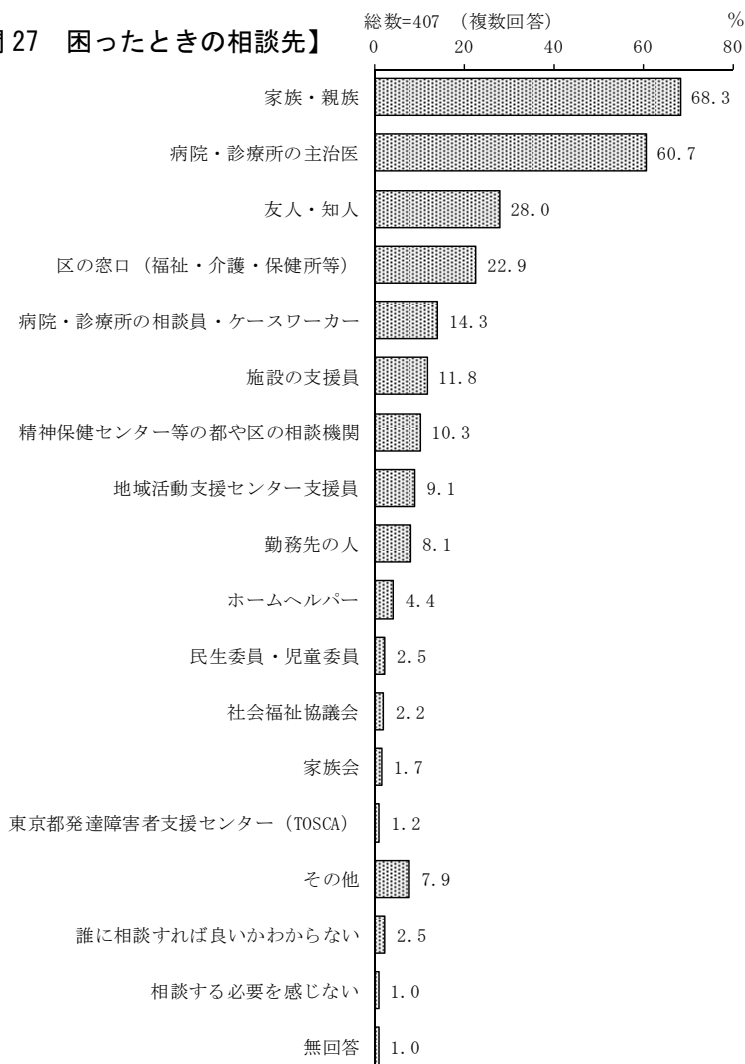
【問21 不安や心配に感じていること】



(8) 困ったときの相談先

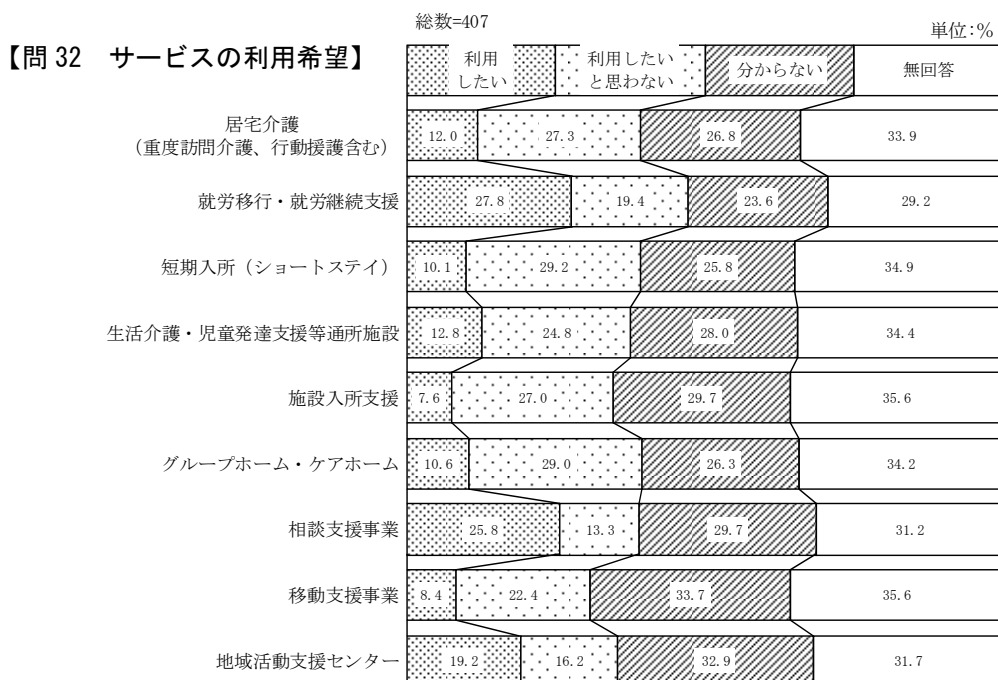
「家族・親族」が68.3%と最も多く、次いで「病院・診療所の主治医」が60.7%、「友人・知人」が28.0%、「区の窓口(福祉・介護・保健所等)」が22.9%、「病院・診療所の相談員・ケースワーカー」が14.3%となっています。

【問27 困ったときの相談先】



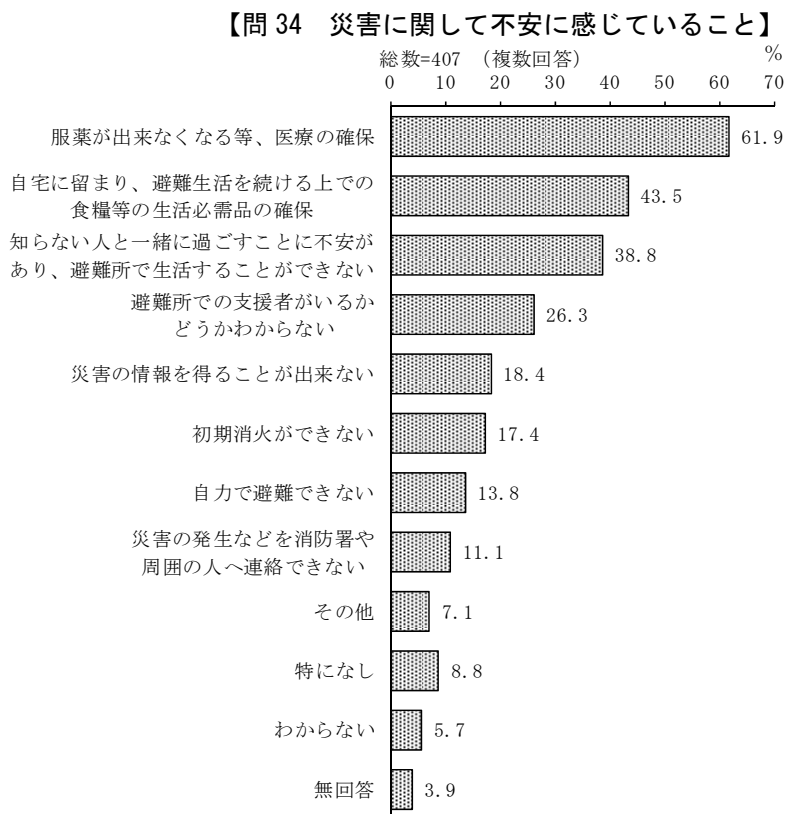
(9) サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「就労移行・就労継続支援」が 27.8%と最も多く、次いで「相談支援事業」が 25.8%、「地域活動支援センター」が 19.2%、「生活介護・児童発達支援等通所施設」が 12.8%、「居宅介護(重度訪問介護、行動援護含む)」が 12.0%となっています。



(10) 災害に関して不安に感じていること

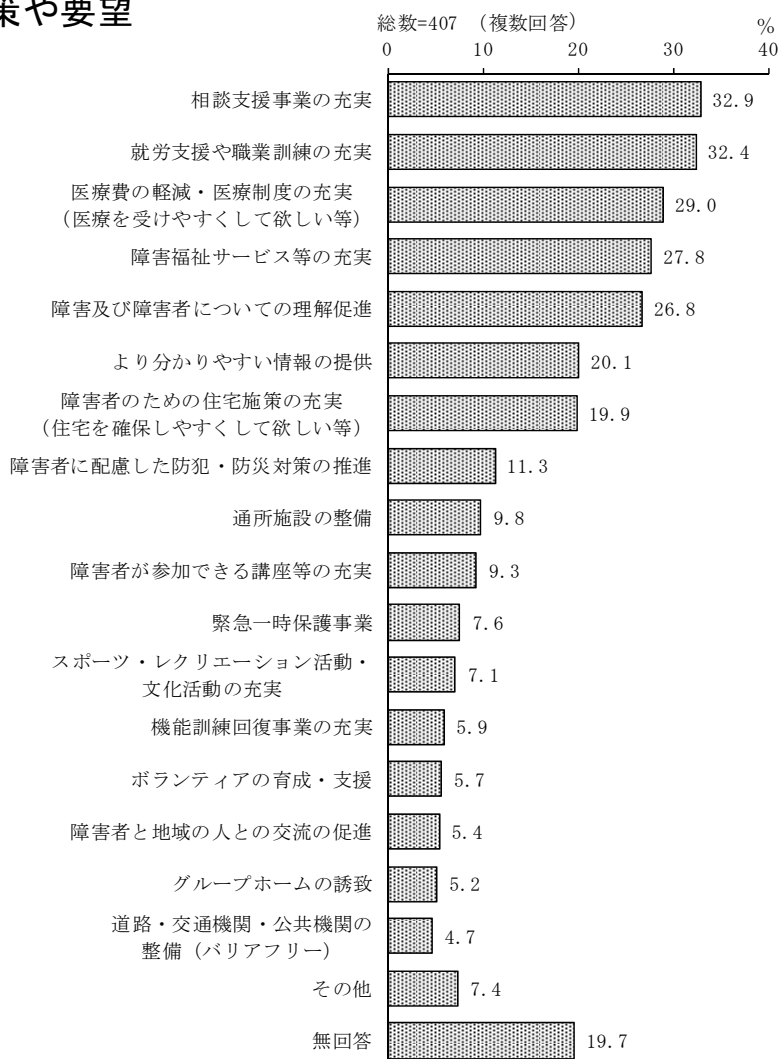
「服薬が出来なくなる等、医療の確保」が 61.9%と最も多く、次いで「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が 43.5%、「知らない人と一緒に過ごすことに不安があり、避難所で生活することができない」が 38.8%、「避難所での支援者がいるかどうか分からない」が 26.3%、「災害の情報を得ることが出来ない」が 18.4%となっています。



(11) 今後力を入れて欲しい施策や要望

「相談支援事業の充実」が32.9%と最も多く、次いで「就労支援や職業訓練の充実」が32.4%、「医療費の軽減・医療制度の充実（医療を受けやすくして欲しい等）」が29.0%、「障害福祉サービス等の充実」が27.8%、「障害及び障害者についての理解促進」が26.8%となっています。

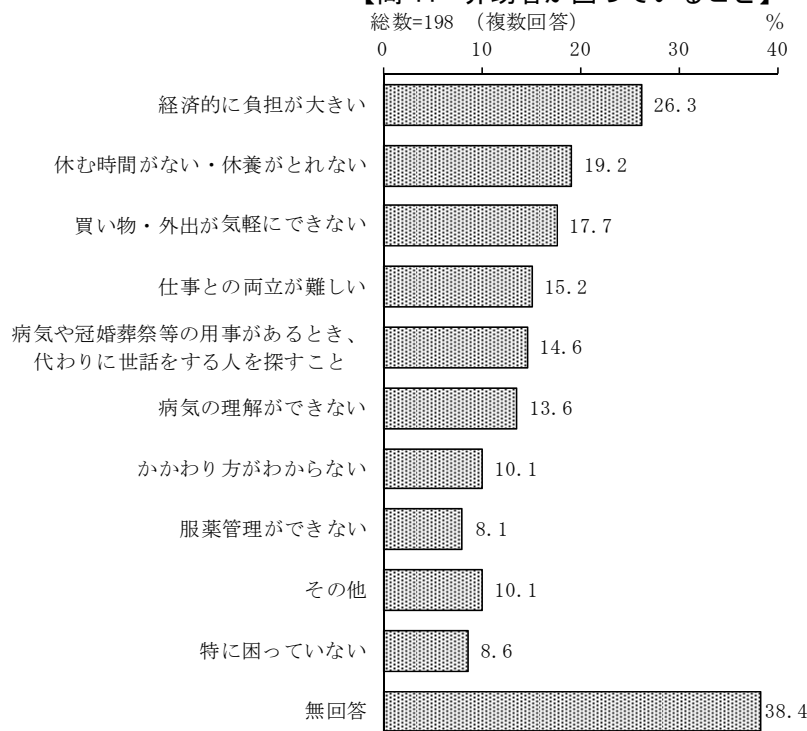
【問 41 今後力を入れて欲しい施策や要望】



(12) 介助者が困っていること

「経済的に負担が大きい」が26.3%と最も多く、次いで「休む時間がない・休養がとれない」が19.2%、「買い物・外出が気軽にできない」が17.7%、「仕事との両立が難しい」が15.2%、「病気や冠婚葬祭等の用事があるとき、代わりに世話をする人を探すこと」が14.6%となっています。「その他」では、「介助者が高齢化している」などの回答がありました。

【問 44 介助者が困っていること】



4. 難病患者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

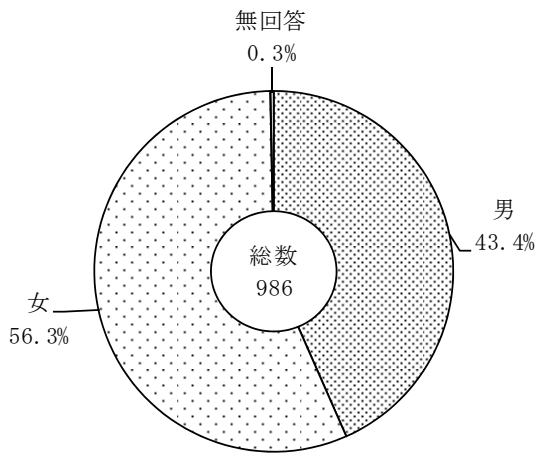
①性別

「女」が56.3%、「男」が43.4%となっています。

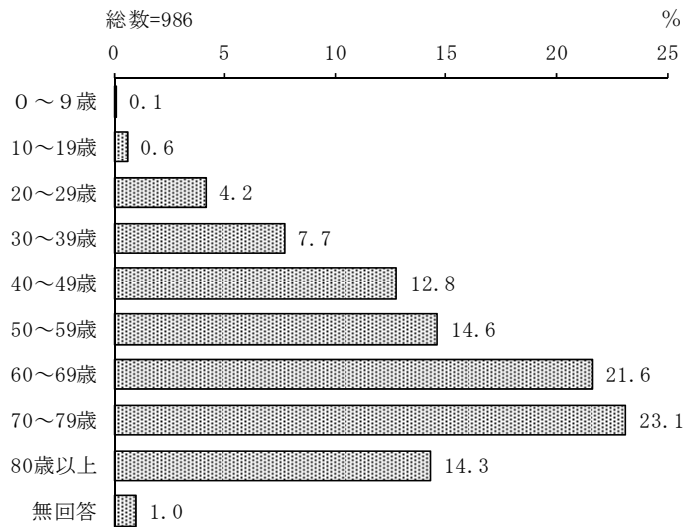
②年齢

「70～79歳」が23.1%と最も多く、次いで「60～69歳」が21.6%、「50～59歳」が14.6%、「80歳以上」が14.3%となっています。また、「65歳以上」を集計すると49.0%となります。

【問2① 性別】



【問2② 年齢】



(2) 手帳の所持状況

全体では、「身体障害者手帳」が40.7%となっています。

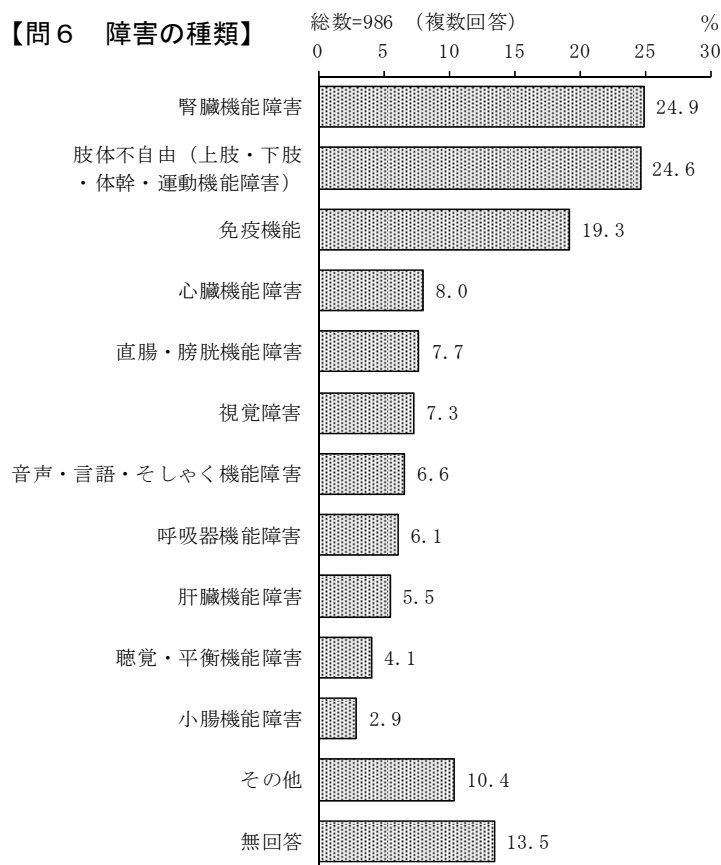
疾患群別に見ると、「身体障害者手帳」という回答の割合は腎・泌尿器系疾患や視覚系疾患で多くなっています。

【問4 手帳の所持状況（疾患群別）】

疾患群	上段：実数 下段：割合	全体	身体障害者手帳	(愛の手帳 東京都療育手帳)	保健福祉手帳	精神障害者	無回答
		986 100.0	401 40.7	6 0.6	2 0.2	581 58.9	
血液系疾患	27 100.0	6 22.2	-	-	-	21 77.8	
免疫系疾患	158 100.0	27 17.1	1 0.6	2 1.3	128 81.0		
内分泌系疾患	14 100.0	-	-	-	14 100.0		
代謝系疾患	1 100.0	-	-	-	1 100.0		
神経・筋疾患	202 100.0	85 42.1	3 1.5	-	116 57.4		
視覚系疾患	16 100.0	10 62.5	-	-	6 37.5		
聴覚・平衡機能系疾患	- *	- *	- *	- *	- *		
循環器系疾患	19 100.0	9 47.4	-	-	10 52.6		
呼吸器系疾患	33 100.0	6 18.2	-	-	27 81.8		
消化器系疾患	177 100.0	14 7.9	-	-	163 92.1		
皮膚・結合組織疾患	52 100.0	7 13.5	1 1.9	-	45 86.5		
骨・関節系疾患	22 100.0	9 40.9	-	-	13 59.1		
腎・泌尿器系疾患	201 100.0	187 93.0	-	-	14 7.0		
不明	20 100.0	16 80.0	1 5.0	-	4 20.0		
無回答	44 100.0	25 56.8	-	-	19 43.2		

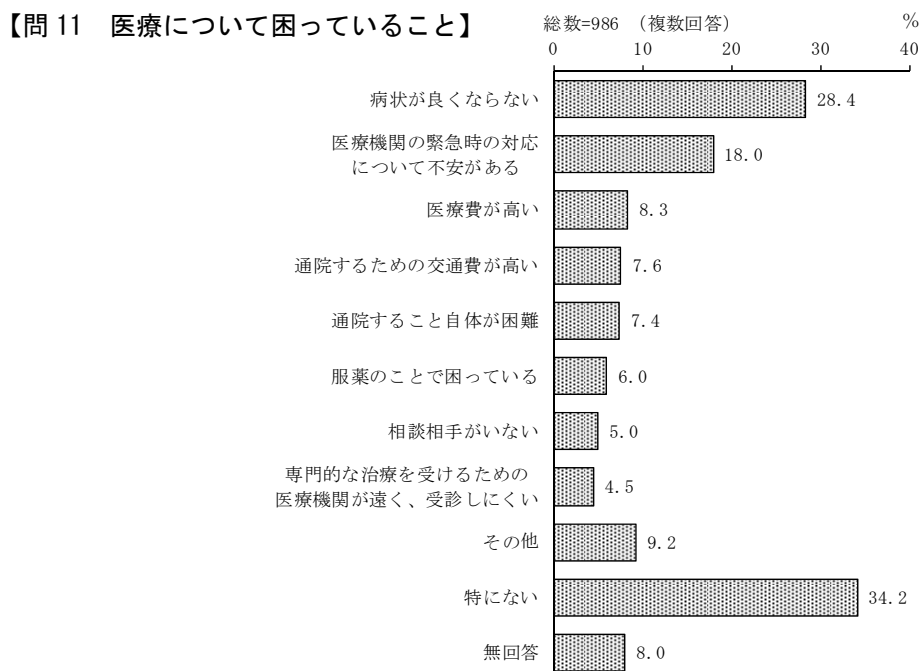
(3) 障害の種類

「腎臓機能障害」が24.9%と最も多く、次いで「肢体不自由（上肢・下肢・体幹・運動機能障害）」が24.6%、「免疫機能」が19.3%、「心臓機能障害」が8.0%、「直腸・膀胱機能障害」が7.7%となっています。「その他」では、「大腸の疾患」などの回答がありました。



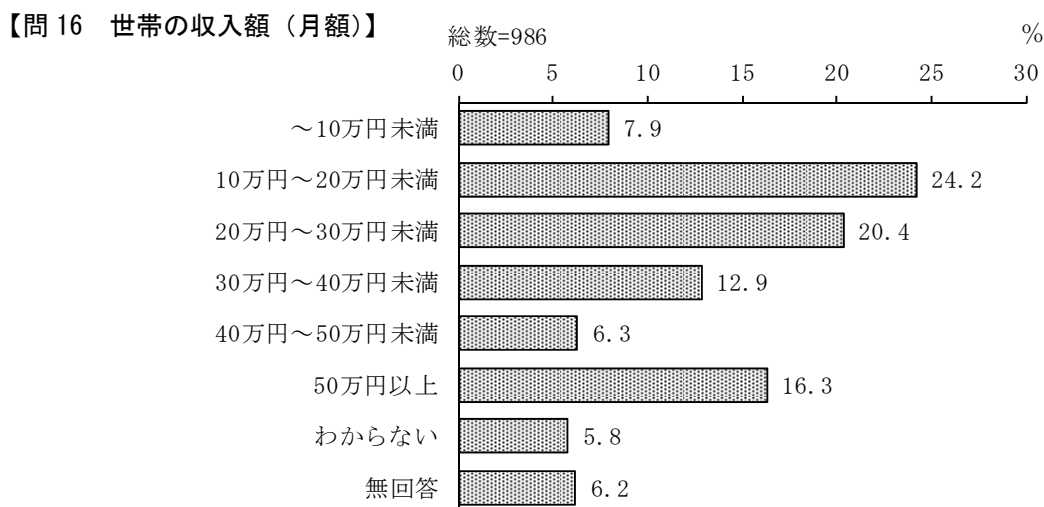
(4) 医療について困っていること

「病状が良くならない」が28.4%と最も多く、次いで「医療機関の緊急時の対応について不安がある」が18.0%、「医療費が高い」が8.3%、「通院するための交通費が高い」が7.6%、「通院すること自体が困難」が7.4%となっています。「特にない」は34.2%でした。



(5) 世帯の収入額（月額）

「10万円～20万円未満」が24.2%と最も多く、次いで「20万円～30万円未満」が20.4%、「50万円以上」が16.3%、「30～40万円未満」が12.9%となっています。



(6) 就労状況

全体では、「会社・団体等の正規雇用で仕事をしている」が18.3%と最も多く、次いで「パート、アルバイトなど非正規雇用で仕事をしている」が9.6%、「自営業など自宅等で収入のある仕事をしている」が7.2%となっています。「働いている」という回答は合わせて39.4%、「働いていない」という回答は57.9%でした。

「会社・団体等の正規雇用で仕事をしている」という回答の割合は18～49歳で多く、「働いていない」という回答の割合は50歳以上で多くなっています。また、就労期（18～64歳）に限ってみると、働いている人は59.8%、働いていない人は38.5%となっています。

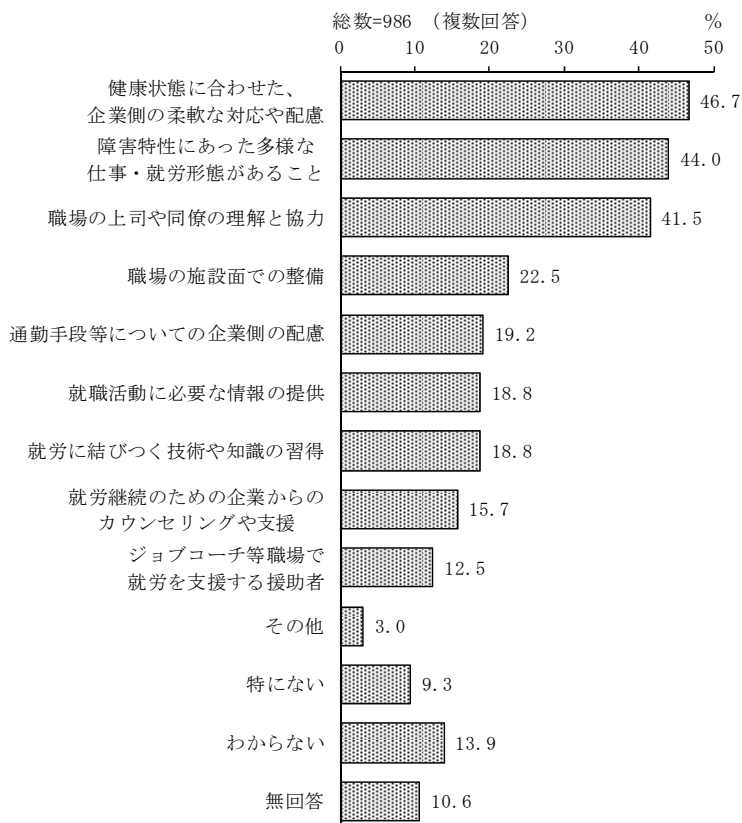
【問18-① 就労状況（年齢別）】

上段：実数 下段：割合	全体	正会社・団体等の正規雇用で仕事をしている	非正規雇用で仕事をしている	パート、アルバイトなど	自営業など自宅等で収入のある仕事をしている	福祉施設等の働いている	その他	働いていない	無回答
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体	986	180	95	71	-	42	571	27	
	100.0	18.3	9.6	7.2	-	4.3	57.9	2.7	
0～11歳	1	-	-	-	-	-	1	-	
	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
12～17歳	4	-	-	-	-	1	3	-	
	100.0	-	-	-	-	25.0	75.0	-	
18～29歳	43	16	8	2	-	1	15	1	
	100.0	37.2	18.6	4.7	-	2.3	34.9	2.3	
30～39歳	76	32	14	2	-	3	25	-	
	100.0	42.1	18.4	2.6	-	3.9	32.9	-	
40～49歳	126	48	22	10	-	5	39	2	
	100.0	38.1	17.5	7.9	-	4.0	31.0	1.6	
50～59歳	144	40	21	17	-	7	54	5	
	100.0	27.8	14.6	11.8	-	4.9	37.5	3.5	
60～64歳	99	17	14	6	-	7	55	-	
	100.0	17.2	14.1	6.1	-	7.1	55.6	-	
65～69歳	114	15	5	11	-	7	72	4	
	100.0	13.2	4.4	9.6	-	6.1	63.2	3.5	
70～74歳	113	4	6	12	-	2	83	6	
	100.0	3.5	5.3	10.6	-	1.8	73.5	5.3	
75歳以上	256	6	5	9	-	9	218	9	
	100.0	2.3	2.0	3.5	-	3.5	85.2	3.5	
無回答	10	2	-	2	-	-	6	-	
	100.0	20.0	-	20.0	-	-	60.0	-	

(7) 障害者が働くために大切なこと

「健康状態に合わせた、企業側の柔軟な対応や配慮」が46.7%と最も多く、次いで「障害特性にあった多様な仕事・就労形態があること」が44.0%、「職場の上司や同僚の理解と協力」が41.5%、「職場の施設面での整備」が22.5%、「通勤手段等についての企業側の配慮」が19.2%となっています。また疾患群別にみた場合でも、上位3つについては順位に変動はあるものの、概ね同様の結果となっています。

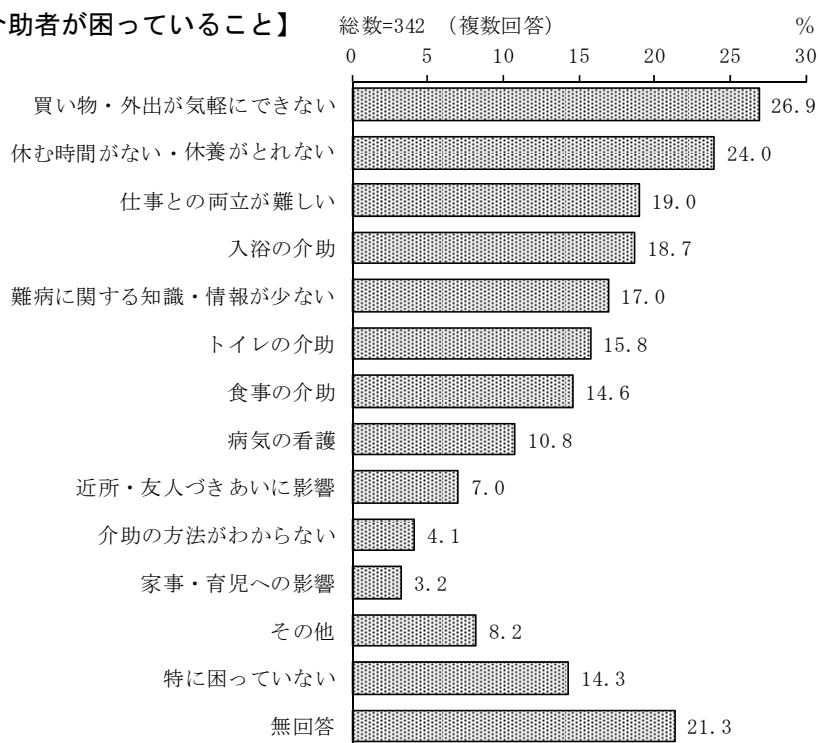
【問 21 障害者が働くために大切なこと】



(8) 介助者が困っていること

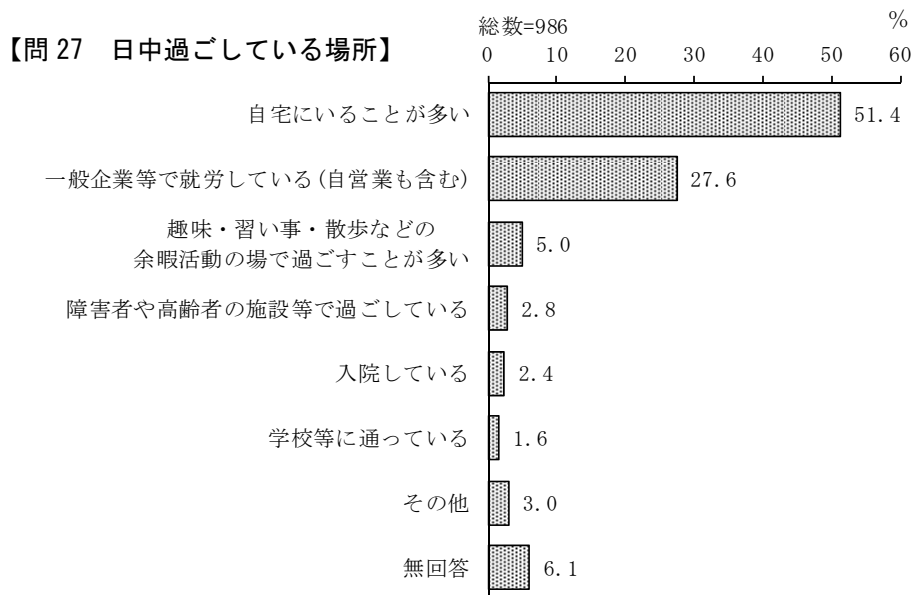
「買い物・外出が気軽にできない」が26.9%と最も多く、次いで「休む時間がない・休養がとれない」が24.0%、「仕事との両立が難しい」が19.0%、「入浴の介助」が18.7%、「難病に関する知識・情報が少ない」が17.0%となっています。

【問 24 介助者が困っていること】



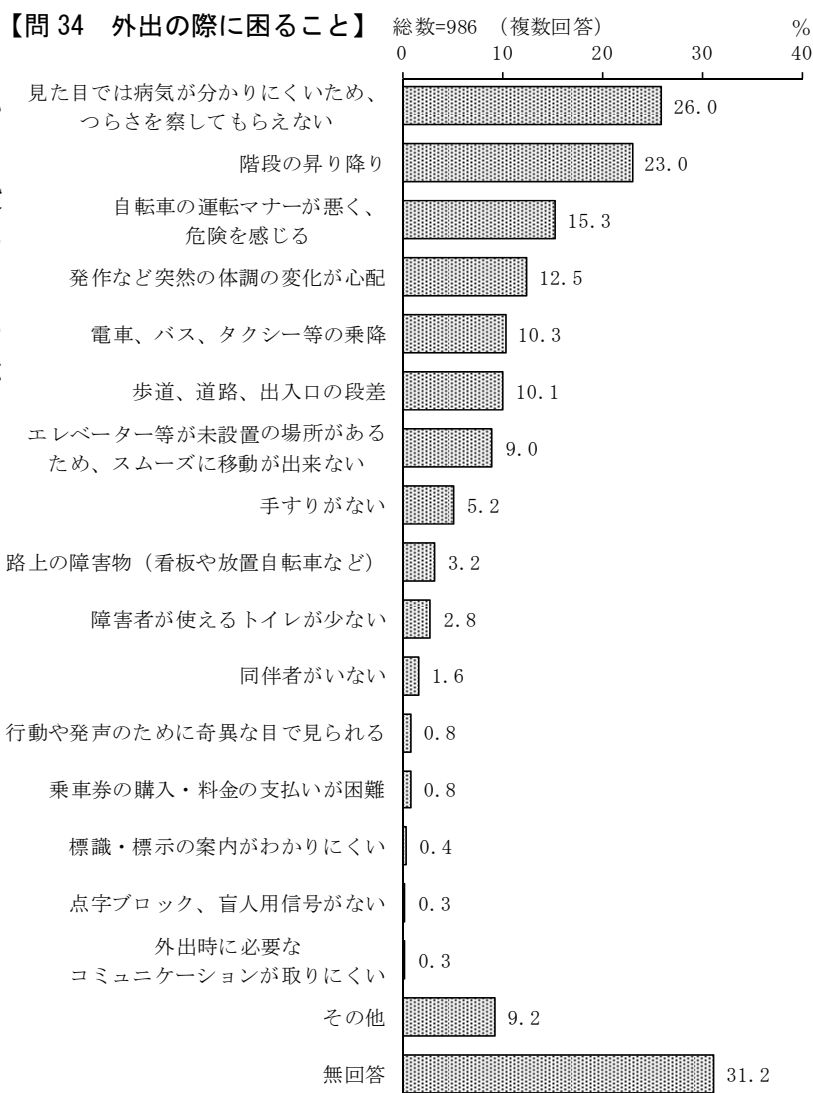
(9) 日中過ごしている場所

「自宅にいたることが多い」が51.4%と最も多く、次いで「一般企業等で就労している(自営業も含む)」が27.6%となっています。



(10) 外出の際に困ること

「見た目では病気が分かりにくいいため、つらさを察してもらえない」が26.0%と最も多く、次いで「階段の昇り降り」が23.0%、「自転車の運転マナーが悪く、危険を感じる」が15.3%、「発作など突然の体調の変化が心配」が12.5%、「電車、バス、タクシー等の乗降」が10.3%となっています。

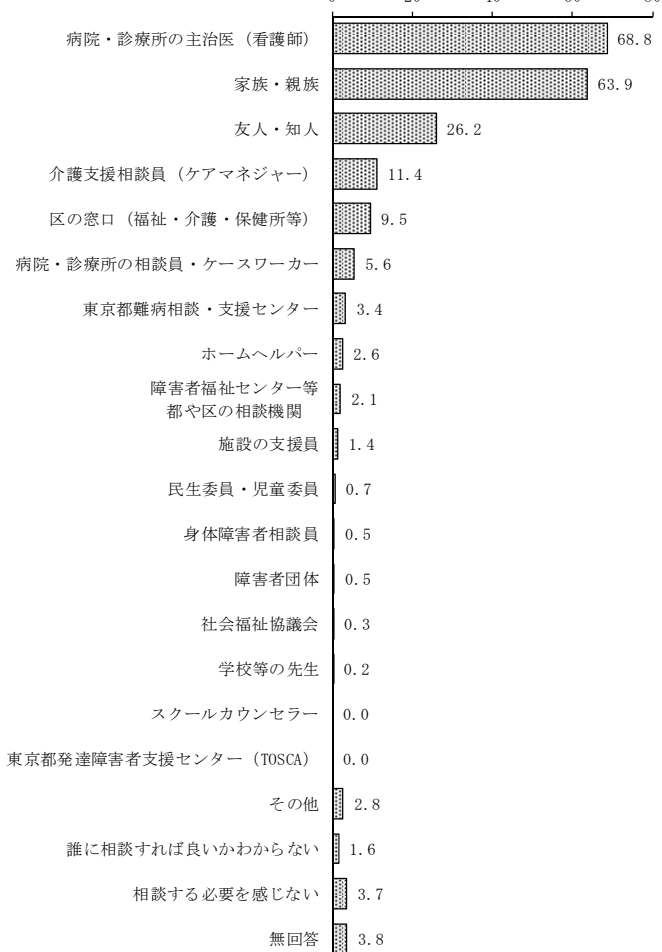


(11) 困ったときの相談先

【問 35 困ったときの相談先】

総数=986 (複数回答) %

「病院・診療所の主治医（看護師）」が68.8%と最も多く、次いで「家族・親族」が63.9%、「友人・知人」が26.2%、「介護支援相談員（ケアマネジャー）」が11.4%、「区の窓口（福祉・介護・保健所等）」が9.5%となっています。

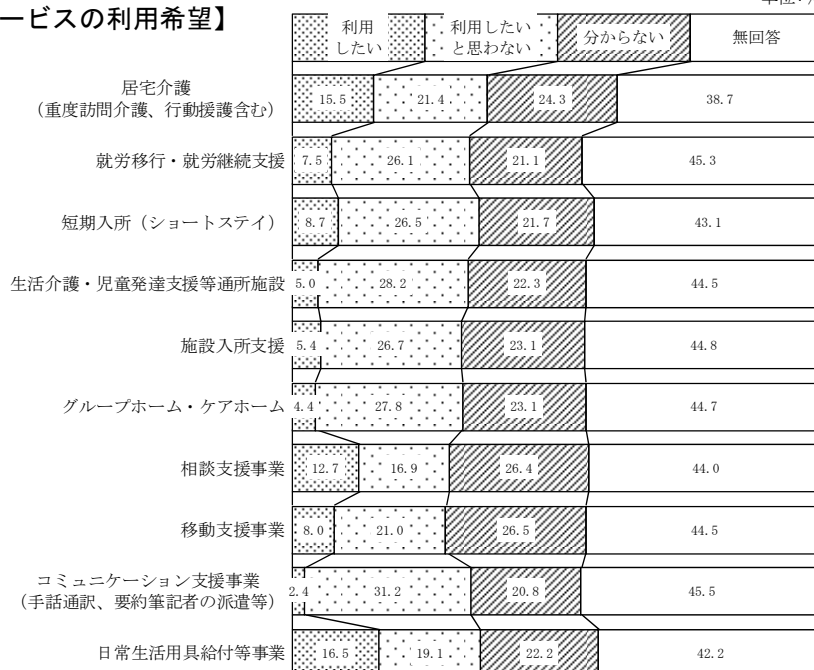


(12) サービスの利用希望

「利用したい」という回答は、「日常生活用具給付等事業」が16.5%と最も多く、次いで「居宅介護（重度訪問介護、行動援護含む）」が15.5%、「相談支援事業」が12.7%、「短期入所（ショートステイ）」が8.7%、「移動支援事業」が8.0%となっています。

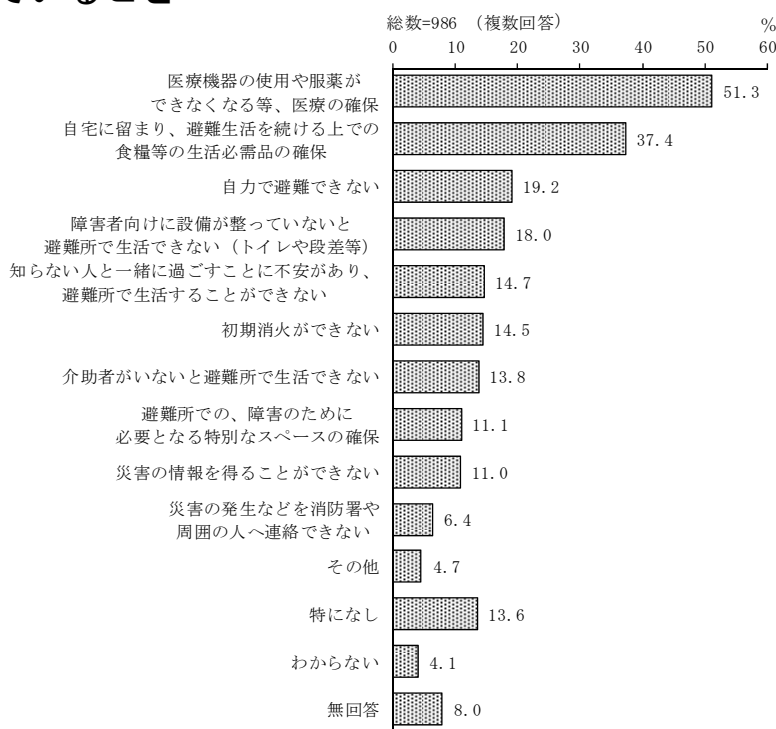
【問 45 サービスの利用希望】

総数=986 単位:%



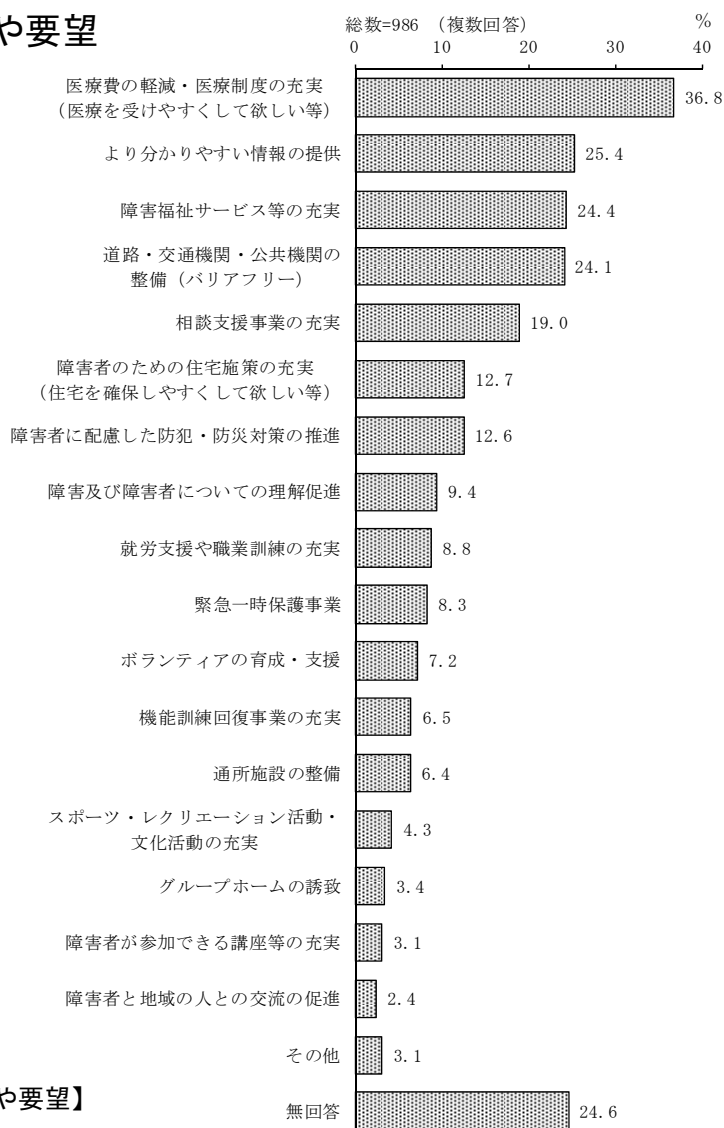
(13) 災害に関して不安に感じていること 【問 48 災害に関して不安に感じていること】

「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が 51.3%と最も多く、次いで「自宅に留まり、避難生活を続ける上での食糧等の生活必需品の確保」が 37.4%、「自力で避難できない」が 19.2%、「障害者向けに設備が整っていないと避難所で生活できない（トイレや段差等）」が 18.0%、「知らない人と一緒に過ごすことに不安があり、避難所で生活することができない」が 14.7%となっています。



(14) 今後力を入れて欲しい施策や要望

「医療費の軽減・医療制度の充実（医療を受けやすくして欲しい等）」が 36.8%と最も多く、次いで「より分かりやすい情報の提供」が 25.4%、「障害福祉サービス等の充実」が 24.4%、「道路・交通機関・公共機関の整備（バリアフリー）」が 24.1%、「相談支援事業の充実」が 19.0%となっています。



【問 55 今後力を入れて欲しい施策や要望】

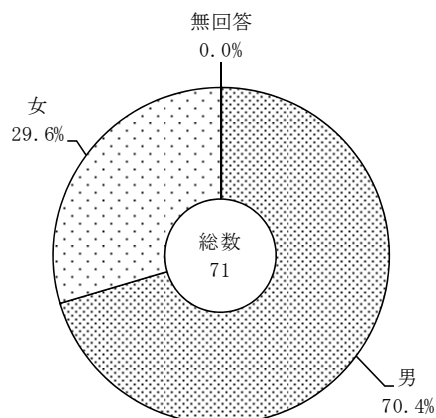
5. 就学前児童の保護者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

①性別

「男」が70.4%、「女」が29.6%
となっています。

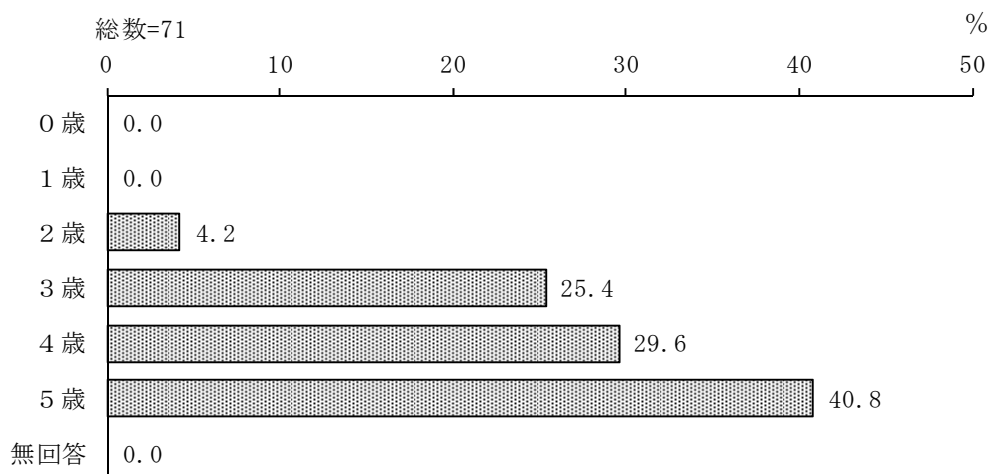
【問1① 性別】



②年齢

「5歳」が40.8%と最も多く、次いで「4歳」が29.6%、「3歳」が25.4%となっています。

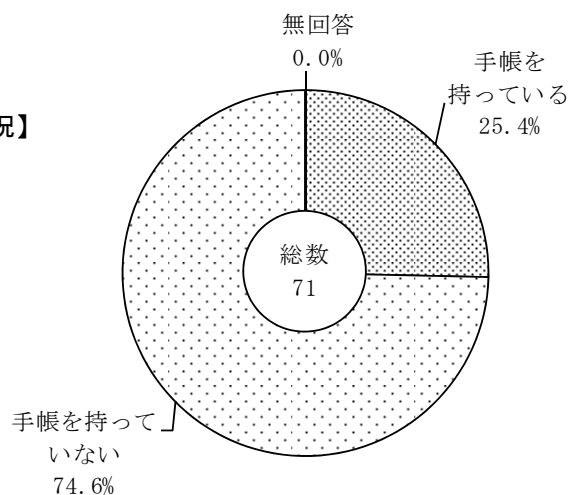
【問1② 年齢】



(2) 手帳の所持状況

「手帳を持っていない」が74.6%、「手帳を持っている」が25.4%となっています。

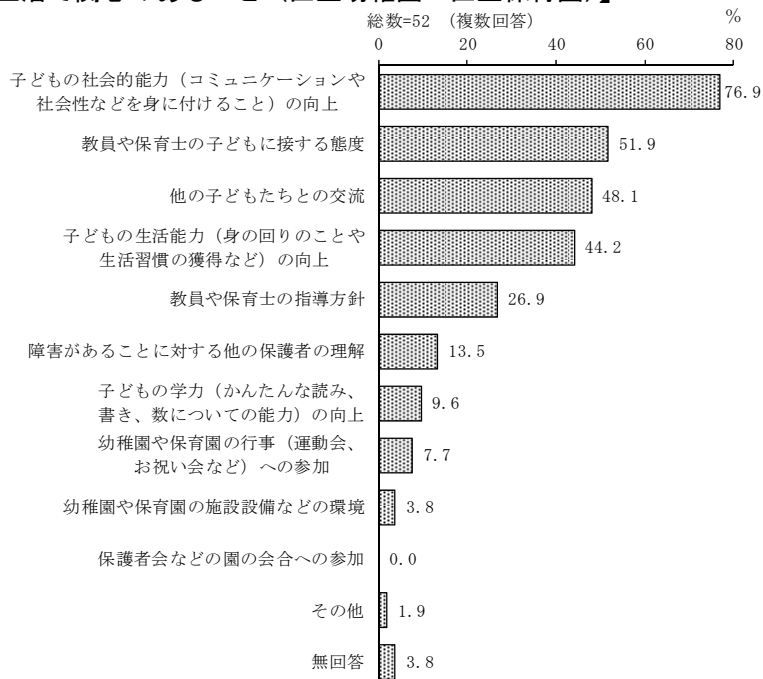
【問2-① 手帳の所持状況】



(3) 通園生活で関心のあること（区立幼稚園・区立保育園）

「子どもの社会的能力（コミュニケーションや社会性などを身に付けること）の向上」が76.9%と最も多く、次いで「教員や保育士の子どもに接する態度」が51.9%、「他の子どもたちとの交流」が48.1%、「子どもの生活能力（身の回りのことや生活習慣の獲得など）の向上」が44.2%、「教員や保育士の指導方針」が26.9%となっています。

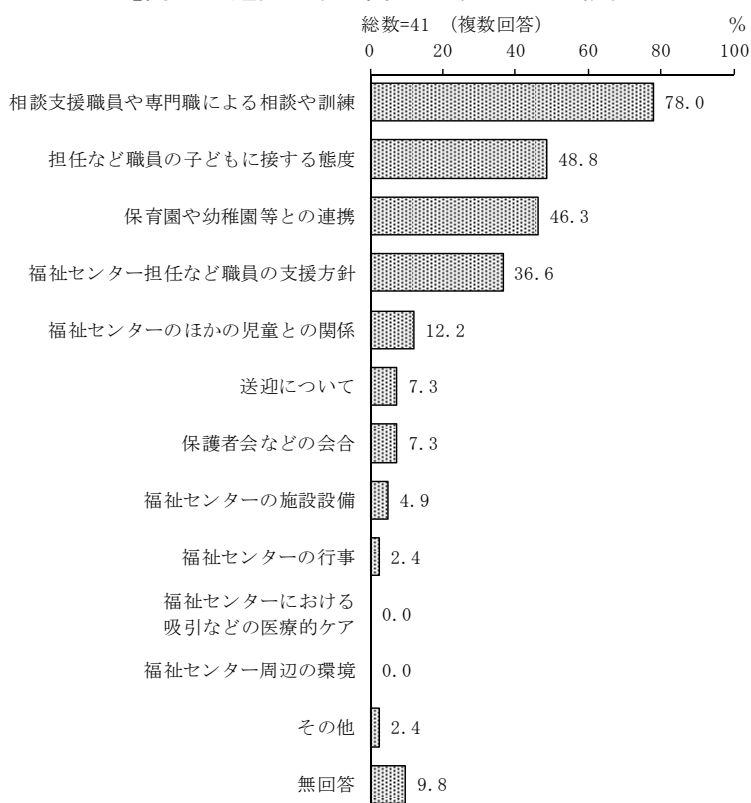
【問9 通園生活で関心のあること（区立幼稚園・区立保育園）】



(4) 通園生活で関心のあること（福祉センター）

「相談支援職員や専門職による相談や訓練」が78.0%と最も多く、次いで「担任など職員の子どもに接する態度」が48.8%、「保育園や幼稚園等との連携」が46.3%、「福祉センター担任など職員の支援方針」が36.6%、「福祉センターのほかの児童との関係」が12.2%となっています。

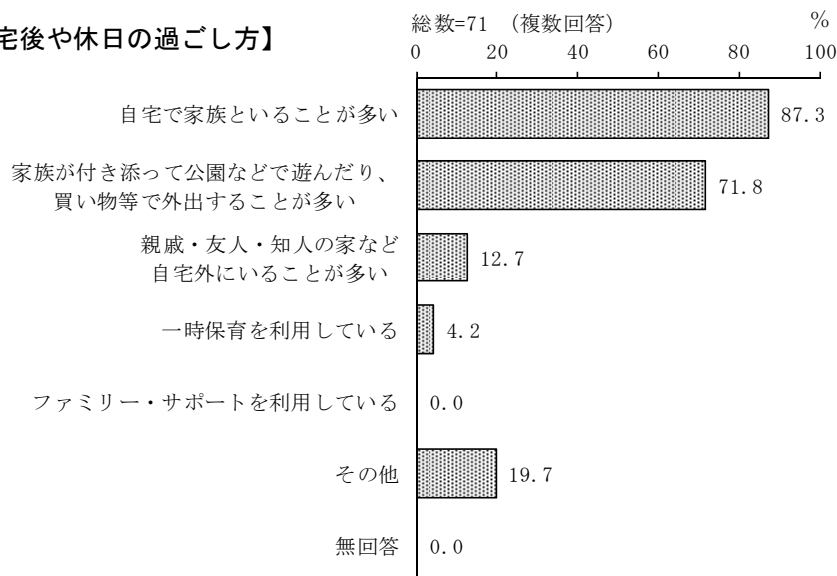
【問13 通園生活で関心のあること（福祉センター）】



(5) 帰宅後や休日の過ごし方

「自宅で家族といることが多い」が87.3%と最も多く、次いで「家族が付き添って公園などで遊んだり、買い物等で外出することが多い」が71.8%、「親戚・友人・知人の家など自宅外にすることが多い」が12.7%となっています。「その他」では、「習い事をしている」などの回答がありました。

【問 15 帰宅後や休日の過ごし方】

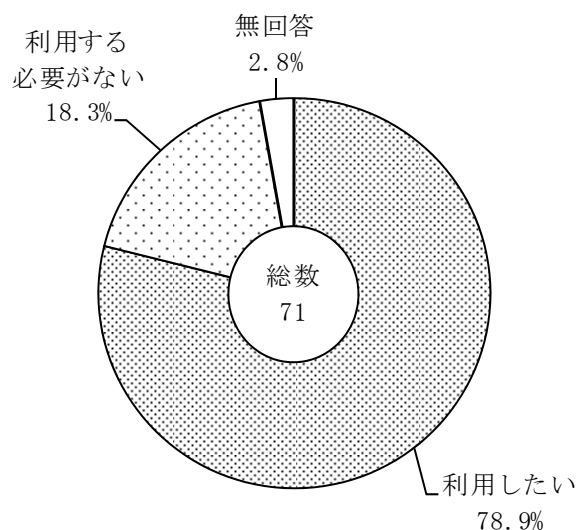


(6) 不定期の一時預かりの利用希望

① 不定期の一時預かりの利用希望

「利用したい」は78.9%、「利用する必要がない」が18.3%となっています。

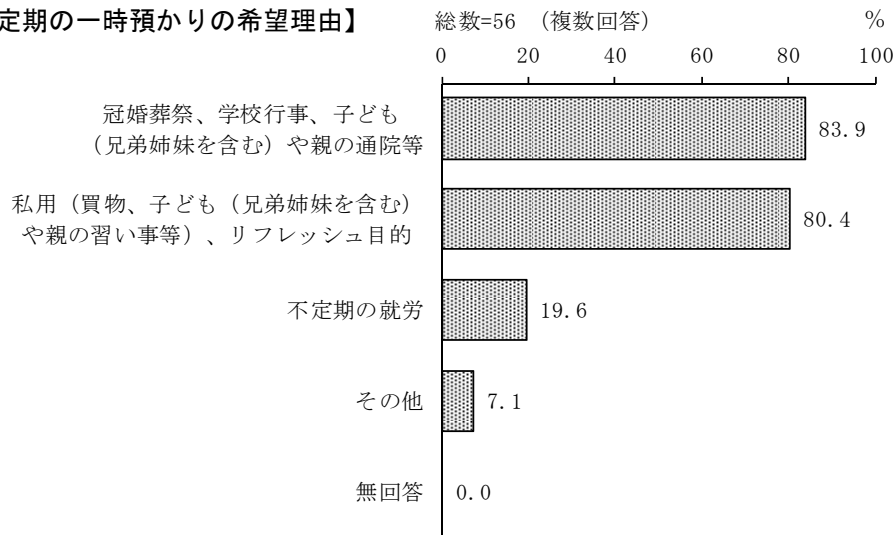
【問 17-①-1 不定期の一時預かりの利用希望】



②不定期の一時預かりの希望理由

「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が83.9%と最も多く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が80.4%、「不定期の就労」が19.6%となっています。

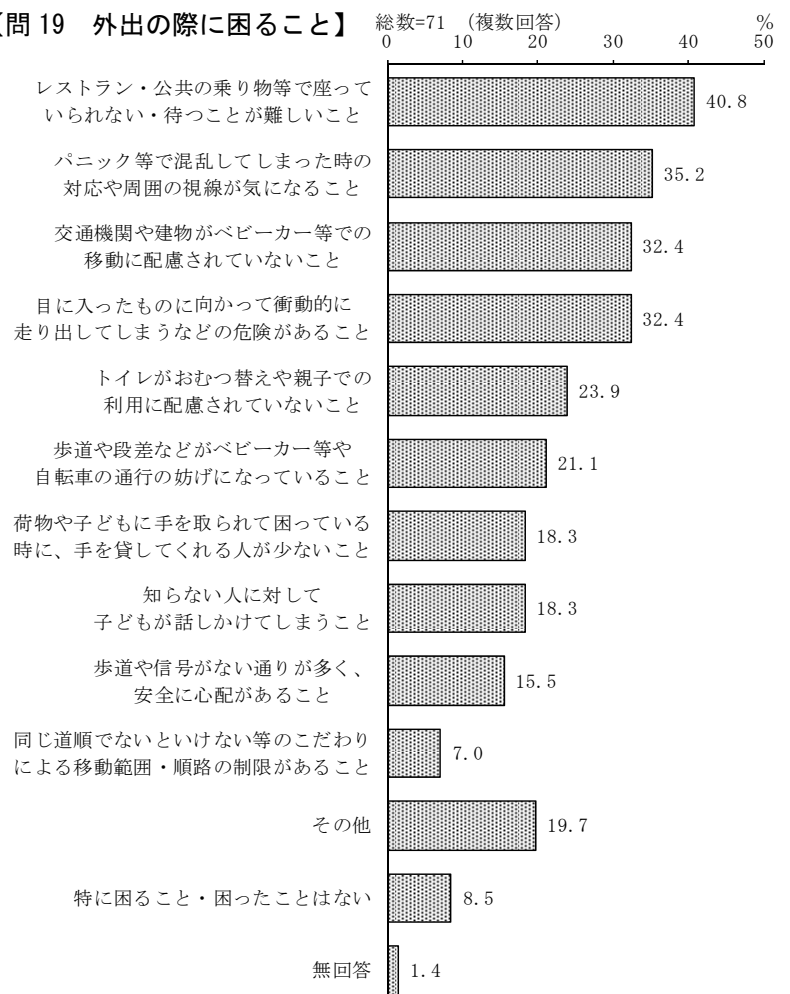
【問 17-①-2 不定期の一時預かりの希望理由】



(7) 外出の際に困ること

「レストラン・公共の乗り物等で座ってられない・待つことが難しいこと」が40.8%と最も多く、次いで「パニック等で混乱してしまった時の対応や周囲の視線が気になること」が35.2%、「交通機関や建物がベビーカー等での移動に配慮されていないこと」が32.4%、「目に入ったものに向かって衝動的に走り出してしまうなどの危険があること」がそれぞれ32.4%、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないこと」と「目に入ったものに向かって衝動的に走り出してしまうなどの危険があること」がそれぞれ23.9%となっています。「その他」では、「大声を出してしまう」、「自転車の走行などが危険」などの回答がありました。

【問 19 外出の際に困ること】



(8) 子育てにおける悩みや不安

全体では、「子どもの成長や発達について」が 83.1%と最も多く、次いで「子どもの就学や進路について」が 66.2%、「自分の時間が取れず、自由がないこと」が 40.8%、「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が 31.0%、「子どもの健康について」が 26.8%となっています。

「自分の時間が取れず、自由がないこと」という回答の割合はつらいと感じることの方が多く方です。

【問 22 子育てにおける悩みや不安（子育ての感じ方別）】

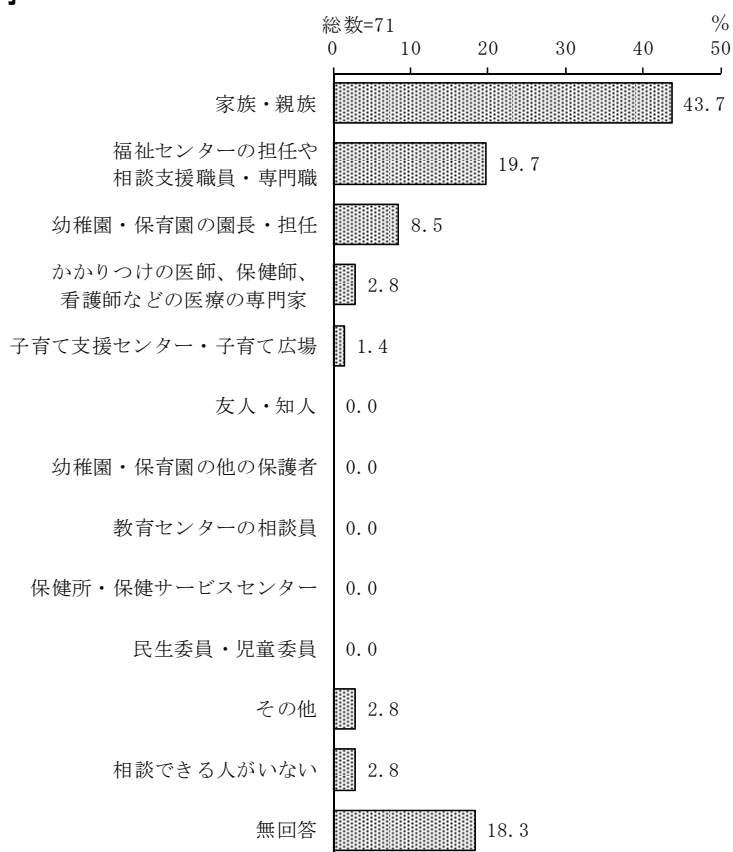
上段：実数 下段：割合	全体	自分の時間が取れず、自由がないこと	子育てに追われ、孤立するよう感じるから	子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい	子育ては親の責任と負担を	子育ては親の責任と負担を	夫婦あるいは家族の間で考えが違っていること	配偶者が子育てへの関わりが少ないこと	子どもへの接し方・関わり方（コミュニケーション）	子どもの成長や発達について	子どもの就学や進路について
	全体	71 100.0	29 40.8	7 9.9	22 31.0	13 18.3	14 19.7	12 16.9	9 12.7	59 83.1	47 66.2
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	30 100.0	10 33.3	-	8 26.7	2 6.7	6 20.0	4 13.3	1 3.3	26 86.7	21 70.0
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	21 100.0	8 38.1	4 19.0	11 52.4	5 23.8	4 19.0	4 19.0	2 9.5	18 85.7	11 52.4
	つらいと感じることの方が多い	15 100.0	9 60.0	2 13.3	3 20.0	5 33.3	4 26.7	4 26.7	3 20.0	10 66.7	11 73.3
	その他	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	2 66.7	3 100.0	3 100.0
	わからない	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	1 100.0	1 100.0
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-

上段：実数 下段：割合	子どもの健康について	兄弟姉妹の子育て（お子さんの）	障害への周囲の理解	障害に対する相談機関が	身近なところの相談者がいない	子育てや医療費に経済的な負担が大きい	その他	特に不安や悩みはない	無回答
	全体	19 26.8	12 16.9	13 18.3	3 4.2	5 7.0	5 7.0	2 2.8	1 1.4
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	12 40.0	3 10.0	5 16.7	2 6.7	2 6.7	-	1 3.3	-
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	2 9.5	4 19.0	4 19.0	1 4.8	-	2 9.5	-	2 9.5
	つらいと感じることの方が多い	4 26.7	4 26.7	2 13.3	-	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7
	その他	-	-	1 33.3	-	-	-	-	-
	わからない	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-

(9) 子どものことで相談する相手

「家族・親族」が 43.7%と最も多く、次いで「福祉センターの担任や相談支援職員・専門職」が 19.7%、「幼稚園・保育園の園長・担任」が 8.5%となっています。

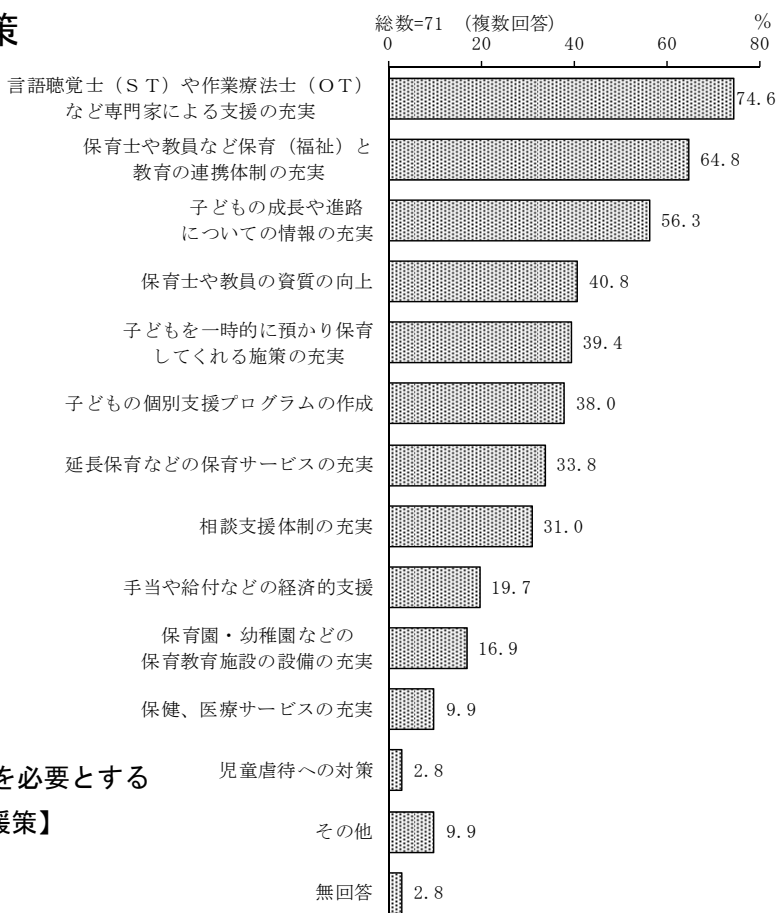
【問 23 子どものことで相談する相手】



(10) 特別な支援・配慮を必要とする

子どもを持つ家庭への支援策

「言語聴覚士（ST）や作業療法士（OT）など専門家による支援の充実」が 74.6%と最も多く、次いで「保育士や教員など保育（福祉）と教育の連携体制の充実」が 64.8%、「子どもの成長や進路についての情報の充実」が 56.3%、「保育士や教員の資質の向上」が 40.8%、「子どもを一時的に預かり保育してくれる施策の充実」が 39.4%となっています。



【問 25 特別な支援・配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援策】

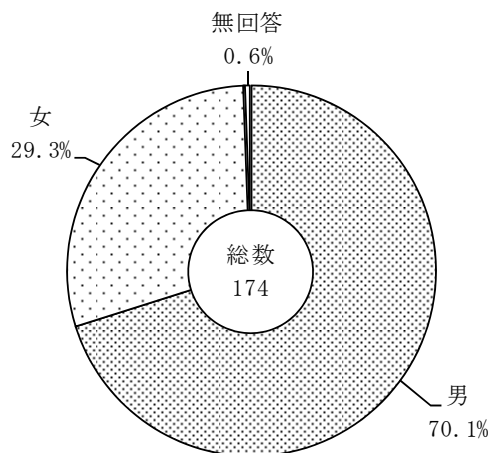
6. 就学後児童の保護者を対象とした調査

(1) 性別・年齢

①性別

「男」は70.1%、「女」は29.3%となっています。

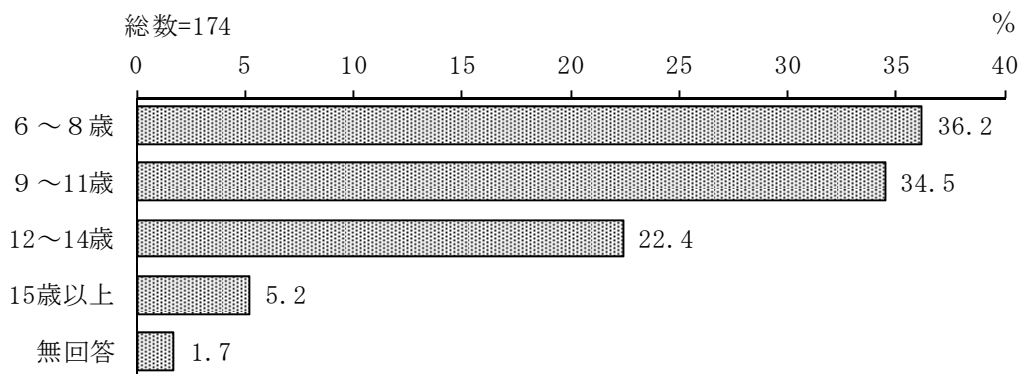
【問1① 性別】



②年齢

「6～8歳」が36.2%と最も多く、次いで「9～11歳」が34.5%、「12～14歳」が22.4%、「15歳以上」が5.2%となっています。

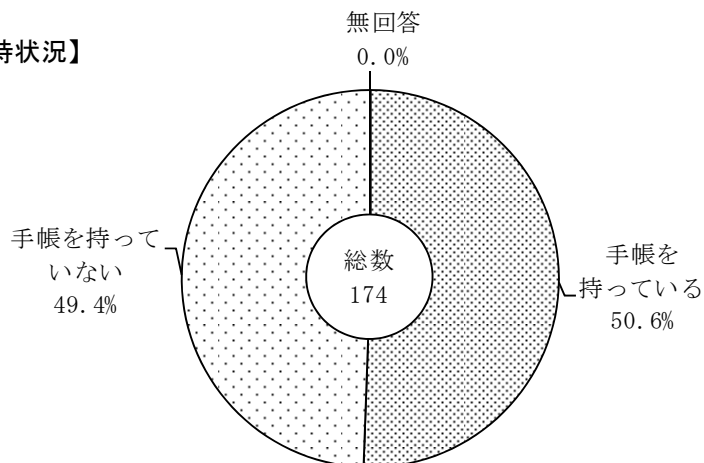
【問1② 年齢】



(2) 手帳の所持状況

「手帳を持っている」が50.6%、「手帳を持っていない」が49.4%となっています。

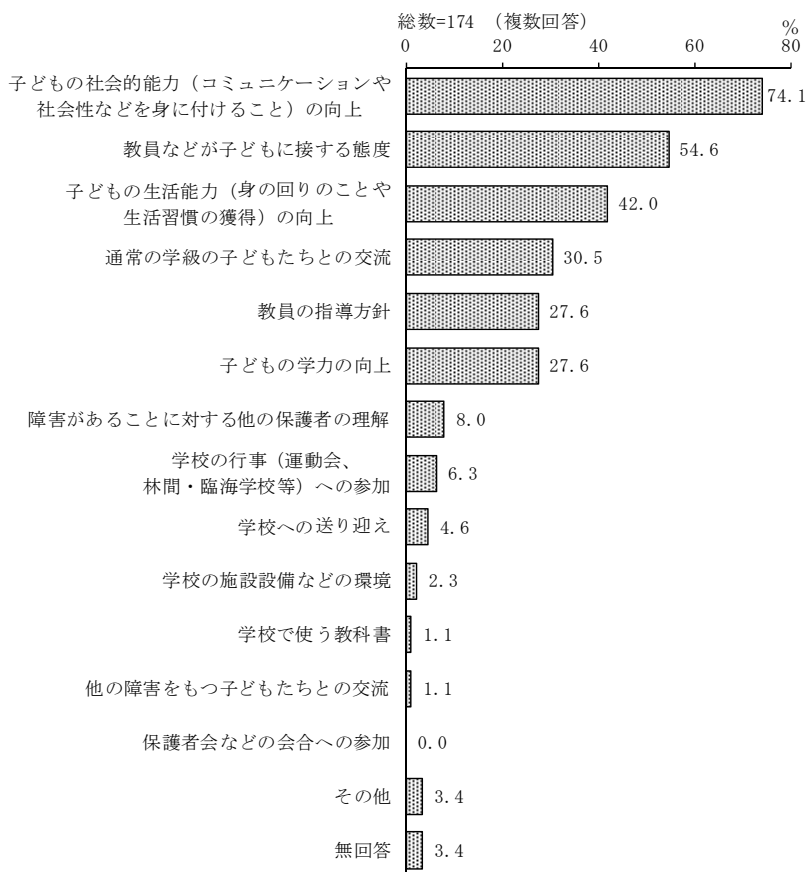
【問2-① 手帳の所持状況】



(3) 学校生活で関心のあること

「子どもの社会的能力（コミュニケーションや社会性などを身に付けること）の向上」が74.1%と最も多く、次いで「教員などが子どもに接する態度」が54.6%、「子どもの生活能力（身の回りのことや生活習慣の獲得）の向上」が42.0%、「通常の学級の子どもたちとの交流」が30.5%、「教員の指導方針」と「子どもの学力の向上」がそれぞれ27.6%となっています。

【問9 学校生活で関心のあること】

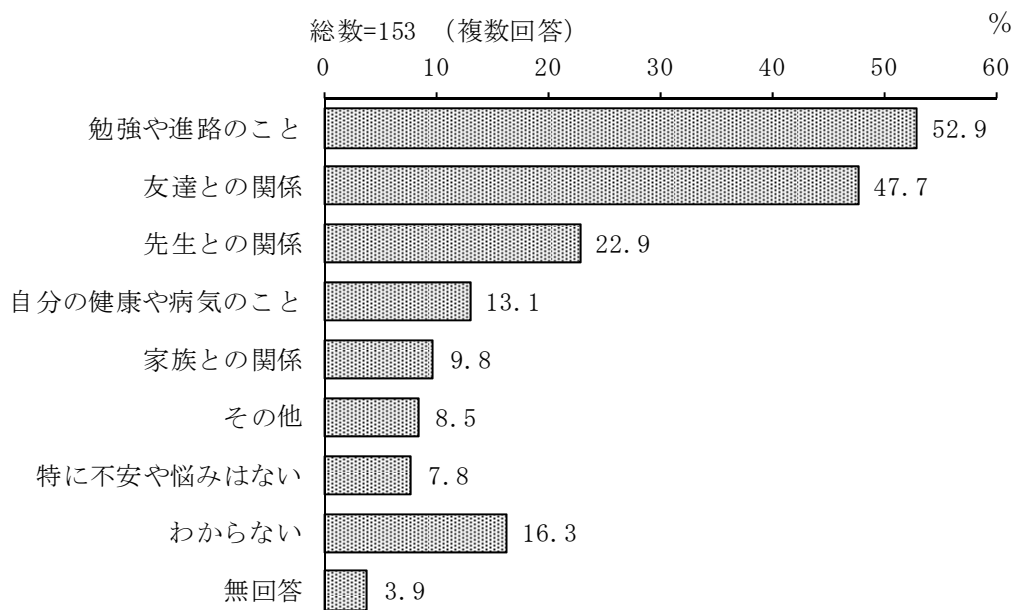


(4) 学校生活における子ども自身の不安や悩み

①学校生活における子ども自身の不安や悩み（保護者の方等が回答）

「勉強や進路のこと」が52.9%と最も多く、次いで「友達との関係」が47.7%、「先生との関係」が22.9%、「自分の健康や病気のこと」が13.1%、「家族との関係」が9.8%となっています。

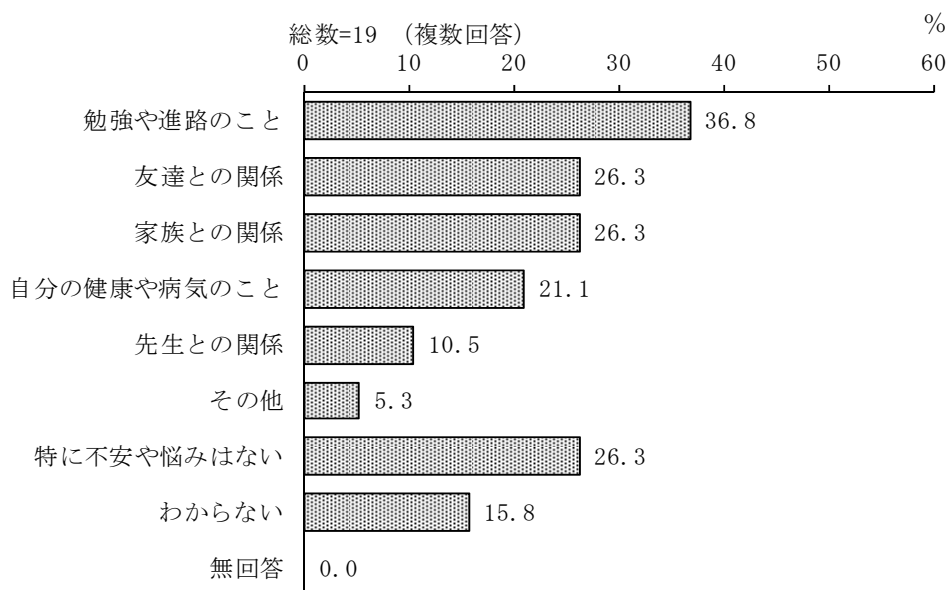
【問11-①-1 学校生活における子ども自身の不安や悩み（保護者の方等が回答）】



②学校生活における子ども自身の不安や悩み（子ども自身が回答）

「勉強や進路のこと」が36.8%と最も多く、次いで「友達との関係」と「家族との関係」がそれぞれ26.3%、「自分の健康や病気のこと」が21.1%、「先生との関係」が10.5%となっています。「特に不安や悩みはない」は26.3%でした。

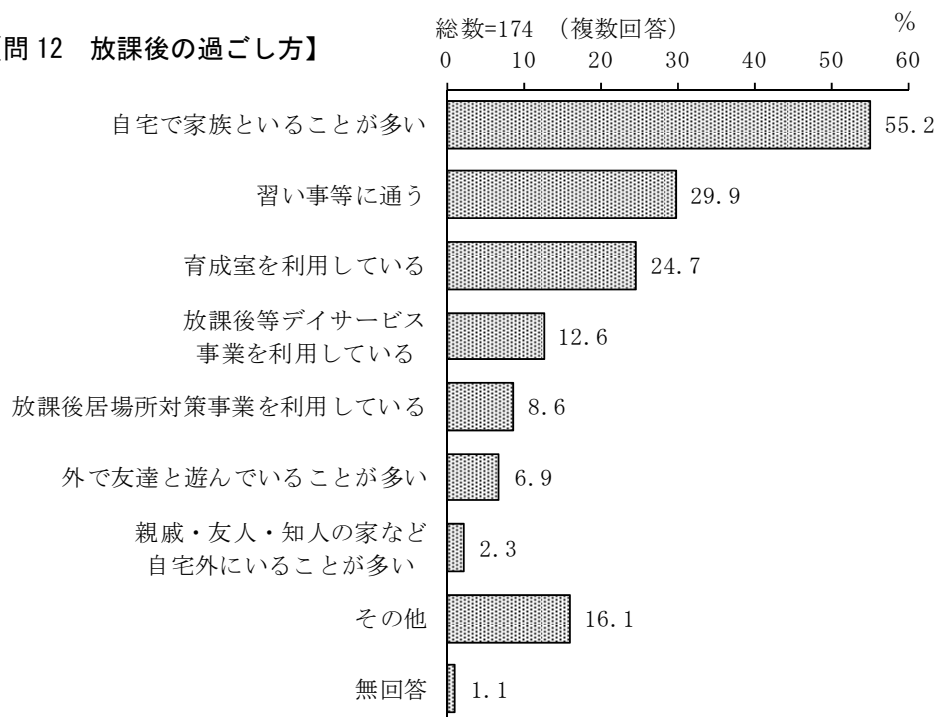
【問 11-①-2 学校生活における子ども自身の不安や悩み(子ども自身が回答)】



(5) 放課後の過ごし方

「自宅で家族といることが多い」が55.2%と最も多く、次いで「習い事等に通う」が29.9%、「育成室を利用している」が24.7%、「放課後等デイサービス事業を利用している」が12.6%、「放課後居場所対策事業を利用している」が8.6%となっています。「その他」では、「児童館を利用している」、「友だちと遊んでいる」などの回答がありました。

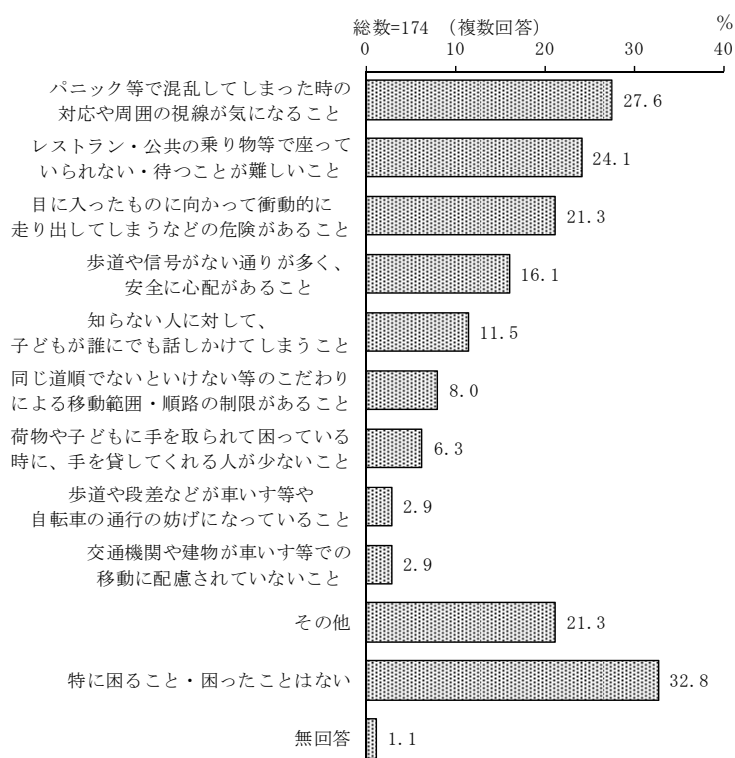
【問 12 放課後の過ごし方】



(6) 外出の際に困ること

「パニック等で混乱してしまった時の対応や周囲の視線が気になること」が27.6%と最も多く、次いで「レストラン・公共の乗り物等で座ってられない・待つことが難しいこと」が24.1%、「目に入ったものに向かって衝動的に走り出してしまうなどの危険があること」が21.3%、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」が16.1%、「知らない人に対して、子どもが誰にでも話しかけてしまうこと」が11.5%となっています。「特に困ること・困ったことはない」は32.8%でした。「その他」では、「大声を出してしまう」、「興味のあるものの方へ行ってしまう」などの回答がありました。

【問 19 外出の際に困ること】



(7) 子育てにおける悩みや不安

全体では、「子どもの就学や進路について」が78.2%と最も多く、次いで「子どもの成長や発達について」が67.2%、「自分の時間が取れず、自由がないこと」が29.9%、「障害への周囲の理解」が27.0%、「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」が21.8%となっています。

「自分の時間が取れず、自由がないこと」という回答の割合は、楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらいが多く、「子育ては親の責任と言われ、不安と負担を感じる」という回答の割合は、つらいと感じることの方が多くで多くなっています。

【問 21 子育てにおける悩みや不安 (子育ての感じ方別)】

上段：実数 下段：割合	全体	子育ての感じ方										
		自由がないこと	自分の時間が取れず、	孤立するに追われ、社会から	と子育てと仕事・キャリア	両立が難しいこと	不安と責任と負担を	子育ては親の責任と負担を	夫婦が違っていること	配偶者が子育てへの関わりが少なくて	がわが子への接し方・関わり方	子どもの成長や発達について
全体	174	52	13	38	36	24	31	20	117	136		
	100.0	29.9	7.5	21.8	20.7	13.8	17.8	11.5	67.2	78.2		
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	64	16	3	13	9	7	6	4	43	50	
		100.0	25.0	4.7	20.3	14.1	10.9	9.4	6.3	67.2	78.1	
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	61	23	4	15	8	7	13	8	43	46	
		100.0	37.7	6.6	24.6	13.1	11.5	21.3	13.1	70.5	75.4	
	つらいと感じることの方が多い	41	12	6	9	16	9	10	7	26	33	
		100.0	29.3	14.6	22.0	39.0	22.0	24.4	17.1	63.4	80.5	
	その他	4	1	-	1	1	1	1	1	3	4	
	100.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0	100.0		
わからない	3	-	-	-	1	-	1	-	1	2		
	100.0	-	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	66.7		
無回答	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1		
	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	100.0		

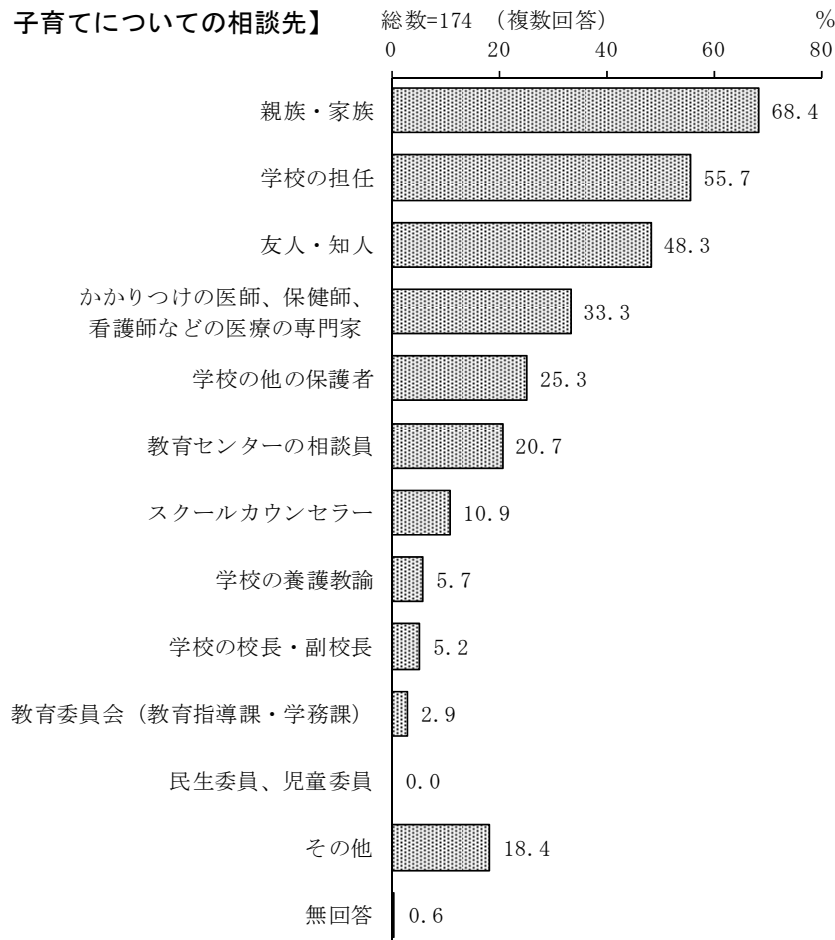
【問 21 子育てにおける悩みや不安（子育ての感じ方別）前ページ続き】

上段：実数 下段：割合		子どもの健康について	兄（お姉さんの子育て）	障害への周囲の理解	ど障害に対する相関機関が	相身近なところない	経済的な負担が大きい	その他	特に不安や悩みはない	無回答
全体		33 19.0	32 18.4	47 27.0	6 3.4	9 5.2	30 17.2	18 10.3	1 0.6	4 2.3
子育ての感じ方	楽しいと感じることの方が多い	15 23.4	11 17.2	14 21.9	4 6.3	2 3.1	10 15.6	8 12.5	-	1 1.6
	楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい	12 19.7	12 19.7	15 24.6	1 1.6	1 1.6	9 14.8	6 9.8	-	2 3.3
	つらいと感じることの方が多い	5 12.2	8 19.5	14 34.1	1 2.4	6 14.6	11 26.8	4 9.8	-	1 2.4
	その他	1 25.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-	-	-	-
	わからない	-	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	-
	無回答	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-

(8) 子育てについての相談先

「親族・家族」が68.4%と最も多く、次いで「学校の担任」が55.7%、「友人・知人」が48.3%、「かかりつけの医師、保健師、看護師などの医療の専門家」が33.3%、「学校の他の保護者」が25.3%となっています。「その他」では、「通級学級の担当教員」、「放課後等デイサービスの職員」、「療育先の指導員」などの回答がありました。

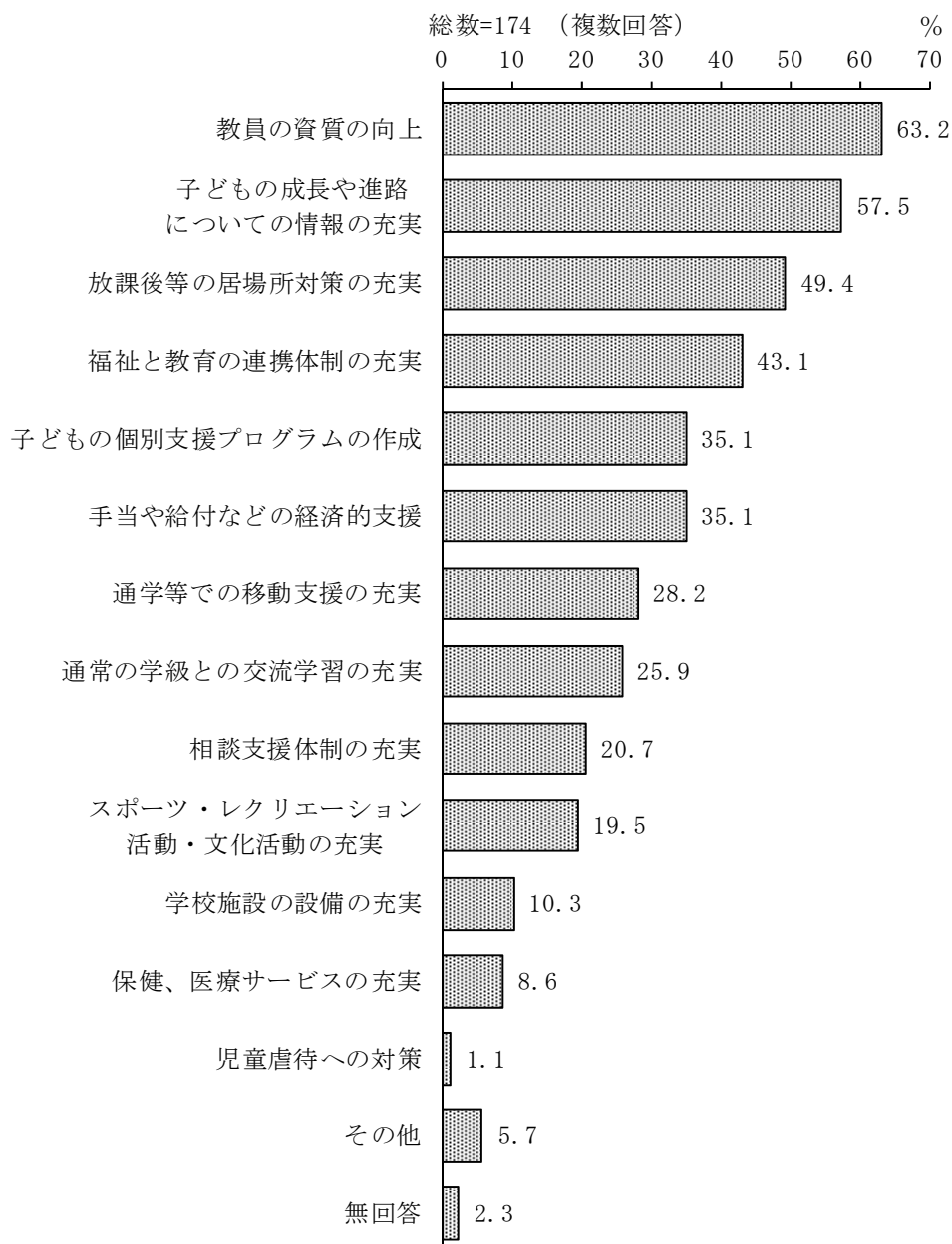
【問 22 子育てについての相談先】



(9) 特別な支援を必要とする子どもを持つ家庭への支援策

「教員の資質の向上」が63.2%と最も多く、次いで「子どもの成長や進路についての情報の充実」が57.5%、「放課後等の居場所対策の充実」が49.4%、「福祉と教育の連携体制の充実」が43.1%、「子どもの個別支援プログラムの作成」と「手当や給付などの経済的支援」がそれぞれ35.1%となっています。

【問 24 特別な支援を必要とする子どもを持つ家庭への支援策】



◆ 質的調査(インタビュー調査)

(1) 質的調査の概要

知的障害者を対象とした量的調査（アンケート調査）では、保護者等が本人の思いを汲んで回答するケースが多いことから、量的調査（アンケート調査）に加え、本人に直接質問するインタビュー調査を実施しました。

調査実施者は、東洋大学社会学部社会福祉学科の4年生で、社会福祉士を目指す障害者福祉に関心のある学生が、同学科の高山直樹教授・志村健一教授の指導のもと担当しました。

(2) 調査対象

- 区内施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者 64名
(利用施設の職員により抽出された、言語でのコミュニケーションが可能な方)
年代及び障害程度の分布については以下の通りです。

【年代及び障害程度分布】

	年代							障害程度				
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計	2度	3度	4度	不明	計
男	2	12	6	9	3	0	32	5	19	8	0	32
女	3	7	6	13	2	1	32	8	14	6	4	32
計	5 (7.8%)	19 (29.7%)	12 (18.8%)	22 (34.4%)	5 (7.8%)	1 (1.6%)	64	13 (20.3%)	33 (51.6%)	14 (21.9%)	4 (6.3%)	64

- 対象施設 11 箇所
(区内 12 施設のうち、文京区に住民票のある利用者がいる 11 施設)

	施設名	施設形態		施設名	施設形態
1	動坂地域活動支援センター	地域活動支援センター	7	ワークショップやまどり	生活介護、自立訓練 就労移行支援 就労継続支援 B 型
2	小石川福祉作業所	就労移行支援・ 就労継続支援 B 型	8	工房わかざり	就労継続支援 B 型
3	大塚福祉作業所	就労移行支援・ 就労継続支援 B 型	9	わかざりの家	知的障害者グループ ホーム・ケアホーム
4	本郷福祉センター (若駒の里)	生活介護	10	エルムンド小石川	知的障害者グループ ホーム・ケアホーム
5	はもと・ピア	生活介護	11	ドリームハウス Ⅲ・Ⅳ	知的障害者グループ ホーム・ケアホーム
6	だんござかハウス	生活介護			

(3) 調査方法

面接法（グループ・インタビュー）

(4) 調査内容

日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、今後の希望等

(5) インタビュー調査により得られた知的障害当事者の主な回答

1. 楽しみ、余暇等

楽しみや余暇等に関するインタビューでは、「パズルをする」、「DVD鑑賞をする」、「絵を描く」、「音楽を聴く」、「テレビを見る」、「手芸をする」といった室内で行うものと、「散歩をする」、「野球観戦をする」、「ボーリングをする」といった屋外で行うものについての回答が得られました。

また、利用施設が企画する郊外宿泊や納涼祭、運動会といった「イベントが楽しい」という回答を多く得ました。このほか、施設での日中活動に対する回答もあり、具体的には「友人と過ごすことが楽しい」、「みんなとおしゃべりすることが楽しい」、「日中作業が楽しい」というものでした。

2. 相談

相談についてのインタビュー結果は、『不安・困りごとについて』と『相談相手について』の2つの項目に整理できました。

『不安・困りごと』の内容は、金銭面や就職、友人関係についてでした。『相談相手』は「施設職員」「先生」「友人」「家族」「区役所」「司法書士」であり、身近な相談相手から専門職までが相談相手となっています。また、「困っていることは特にない」、「相談をしていない」という回答は、生活介護の利用者に多くみられました。

3. 区のサービス

区のサービスの利用状況については、移動支援や成年後見人制度、介護事業所などを利用しているといったものや、余暇活動で区の施設を利用しているという回答のほか、「(サービス利用手続きは自分以外が行っているため) わからない」という回答が得られました。サービスの認識度が利用者の施設種別によって異なっていることが分かりました。

4. 希望等

希望等についてのインタビューでは、『仕事』と『暮らし』の2つに大別できました。

『仕事』については、「今の仕事を続けていきたい」と「他の仕事をしたい」という正反対の回答が得られました。また、『暮らし』については「今の生活を続けていきたい」「グループホームに入りたい」「結婚を少ししたい(してみたい)」という回答がありました。他には、「自分でできることを増やしたい」「作品の展示、販売をしたい」「わからない」という回答が得られ、希望等に対する個別性がうかがわれました。

◆注釈 : 本文中の「 」は、インタビューから得られた知的障害者本人の回答です。

文京区障害者(児)実態・意向調査報告書
概要版

平成 26 年 3 月
印刷物番号 : F0313087

編集・発行 文京区 福祉部障害福祉課
保健衛生部予防対策課
〒112-8555 東京都文京区春日 1-16-21
電話 03-3812-7111 (代表)
調 査 株式会社 社会構想研究所

再生紙を利用しています。

